

高文連

第 11 号

山 口 県 高 等 学 校 文 化 連 盟

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第21回山口県高等学校総合文化祭の記録	
総合開会式	19
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	23
合唱部門	24
吹奏楽部門	25
マーチングバンド・バトントワリング部門	26
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	28
(展示関係部門)	29
美術・工芸部門	33
書道部門	35
写真部門	36
囲碁部門	38
演劇部門	39
放送部門	40
将棋部門	41
第23回全国高等学校総合文化祭の記録	42
器楽・管弦楽部門	44
合唱部門	45
吹奏楽部門	46
マーチングバンド・バトントワリング部門	47
日本音楽部門	49
美術・工芸部門	50
書道部門	53
写真部門	54
囲碁部門	56
演劇部門	57
放送部門	58
将棋部門	60
自主事業	61
 参考資料	
第14回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募一覧	67
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	68
平成11年度山口県高等学校文化連盟＜事業報告・会計決算書＞	70
平成12年度山口県高等学校文化連盟＜事業計画・会計予算書＞	72
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	74
平成11・12年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	79
全国高文連の歌	81

島文連

第 11 号

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 西 田 昇

昨年度の第21回山口県高等学校総合文化祭は、「発動！ 青春の魂 文化の雄飛」をテーマに掲げ、下松市における総合開会式を皮切りに、県内各地で活発に展開されました。芸術・文化の祭典は12部門で開催され延べ221校3150名の高校生が参加しました。各部門ともこれまで以上に高校生の主体性が前面に出るとともに、未来への大きな希望と若さあふれるエネルギーを感じ取ることができた大会でした。

また、第23回全国高等学校総合文化祭は17の開催部門と4の共催部門で「虹の帆をはれ 文化のそらへ」のテーマのもと山形県で開催されました。本県からは延べ32校256名の高校生が参加し、日頃の成果を思う存分に発揮しました。

御案内のように、平成10年3月には、21世紀初頭の社会を展望し今後の山口県教育が目指すべき方向が明らかにされた「山口県教育ビジョン」が発表されました。基本目標は「夢と知恵を育む教育の推進」であり、その目標の実現を図る柱の一つに「個性豊かな地域文化創造と継承」があります。ここでは、文化活動に対する関心が高まるなかで歴史や伝統を育み豊かな文化を培ってきた土壌を礎に個性と魅力ある文化を創造し、暮らしの中に文化を定着していくことの大切さが述べられています。

山口県高等学校文化連盟の果たす役割は大きなものがあり、新しい世紀を豊かな表現力と創造性で切り開いていく高校生の芸術文化活動を支える組織として、今後ますますの躍進が期待されます。

終わりに、この一年間終始温かい御指導を賜りました山口県教育委員会に深甚なる謝意を表しますとともに、山口県高等学校文化連盟の活動に御指導、御協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げ発刊の御挨拶といたします。

山口県高等学校文化連盟・各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行ないました。

1. 平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

- ・ 6月18日(金)・スターピアくだまつ
- ・ 曲目「大地讃頌」
「タンホイザー」より大行進曲
- ・ 指揮／和田道明(華陵高校)
- ・ 参加出演／器楽・管弦楽部門 5校 99名

2. 平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・ 6月18日(金)、19日(土)、20日(日)
- スターピアくだまつ
- ・ 参加各校によるギター、マンドリン、管弦楽の演奏
- ・ 参加出演／7校
332名

3. 第23回全国高等学校総合文化祭山形大会

- ・ 8月3日(火)
- ・ 山形県県民会館
- ・ 山口県代表
柳井高等学校
- ・ 曲目／組曲
「仮面舞踏会」より

4. 平成11年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

- ・ 12月16日(木) ・ 下関南高等学校校長室
部会長以下、出席者8名
- 第19回器楽・管弦楽スプリングコンサート
(柳井大会)、県総文、全総文、高文連表彰などについて協議

5. 第19回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

- ・ 3月28日(火) サンビームやない
- ・ 参加7校、各校によるギター・マンドリン、管弦楽などの演奏



合唱部門

理事長 有 富 美 子
(萩高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して
行なわれた今年度の行事を報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会

(開幕式典に備えての講習会)・5月30日(日)

- ・講師：矢田正一(合唱指揮者)
- ・内容：発声と曲作り
- ・曲目：『大地讃頌』

『タンホイザー』より大行進曲

- ・場所：山口県教育会館大ホール
- ・参加者：12校 207名

とても分かりやすい熱心なご指導をいただきました。
今回得たものを元に平素の活動がよ

り能率的になるよう心掛けたいものです。

2. 平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭開幕式典において慶祝演奏

- ・6月18日(金)
- ・山口県高校管弦楽団との合同演奏
- ・曲目：『大地讃頌』

『タンホイザー』より大行進曲

- ・山口県高等学校合唱団／14校 355名
- 日ごろ小人数で活動してる生徒達にとって、
この大合唱はすばらしい経験となりました。

3. 平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・6月19日(土)、20日(日)
- ・スターピアくだまつ
- ・合唱部門出演者／12校 271名

4. 第23回全国高等学校総合文化祭

- ・8月3日(火)・鶴岡文化会館
 - ・山口県代表／萩光塩学院高校合唱部
 - ・曲目／Salve Regina・Ave verum corpus
- 宗教曲の落ち着いた美しいハーモニーで
会場を魅了しました。

5. 平成11年度山口県高等学校文化連盟合唱部会

- ・12月1日(水)・萩高等学校会議室
- ・出席者／部会長以下10名
- ・議題／県総文、全総文、高文連表彰など
について

6. A J C L (全日本合唱連盟)コンクール

- ・県大会 7月25日(日) 光市
- ・中国大会 8月28日(土) 鳥取市

7. NHK全国学校音楽コンクール山口県大会

- ・8月10日(火) 徳山市



▲第21回山口県高等学校総合文化祭総合開会式(スターピアくだまつ)

吹奏楽部門

理事長 和田道明
(華陵高等学校教諭)

平成11年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は、『発動！ 青春の魂 文化の雄飛』をテーマに、華陵高等学校主管のもと、6月18日（金）スターピアくだまつで盛大に開催されました。

吹奏楽部門は、徳山地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、石川雅起・福田 望先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏に参加しました。

[式典] “ファンファーレ” “高文連の歌”

[慶祝演奏] “音楽祭のプレリュード”

“日本愛唱歌集”

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて6月18日（金）～20日（日）の3日間、音楽4部門発表会並びに連合音楽会が同じくスターピアくだまつで開催されました。吹奏楽部門では61校2,302名の多くの学校や生徒達が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文山形大会

全総文山形大会吹奏楽部門は、7月31日（土）～8月1日（日）の2日間、天童市市民文化会館で開催されました。

山口県代表として岩国商業高等学校吹奏楽部63名（藤本博途先生指揮）が2日目に出演し、曲目「サンダーバード」、「紅炎の鳥」を演奏披露しました。迫力あるサウンドで会場から絶賛の評が聞かれました。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を1月17日（月）華陵高等学校で開催いたしました。県下53名の吹奏楽指導担当者が出席し、本年度事業報告や来年度事業計画、全総文「静岡大会」への参加推薦等の多くの協議事項に対して活発な意見交換がなされました。

5. 高文連吹奏楽部会研修会

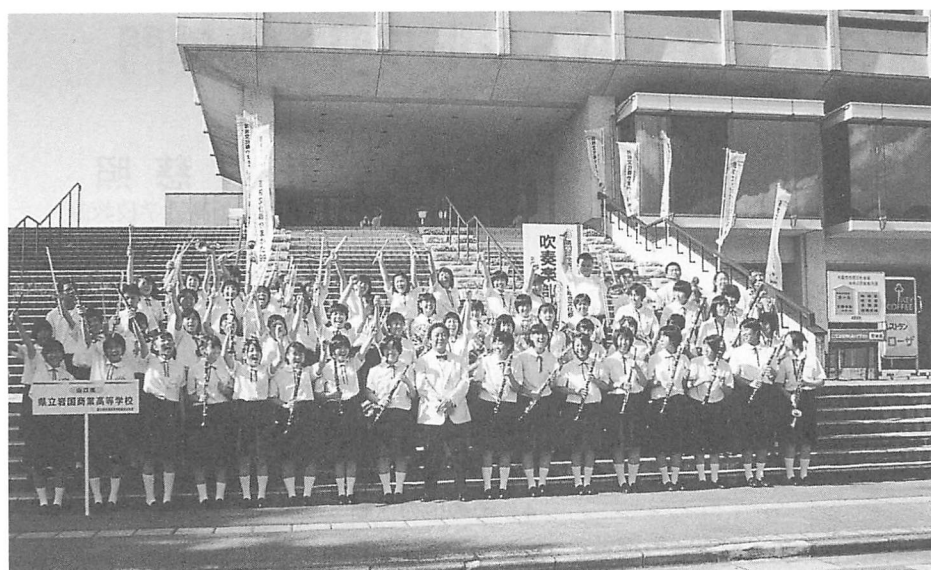
部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

日本の吹奏楽界で多大の功績や実績を積み、吹奏楽指導者としてトップの座に君臨しておられる、尚美学園講師・日本バンドクリニック委員会委員の加養浩幸先生を講師にお招きし、「曲の持つ性格をより表現するためのアナリゼ」と題した講演をしていただきました。

先生のきめ細かな基礎・基本の指導は、平常の指導に直接役立つ内容ばかりで、非常にわかりやすく丁寧に指導していただきました。

日頃から合奏指導で頭を悩めている我々現場の指導者にとっては大変よい勉強になりました。





▲全総文「山形大会」出場の岩国商業高校吹奏楽部



▲
◀ 吹奏楽部会研修会
▼



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

平成11年度山口県高文連マーチングバンド・バトントワリング部門の主な活動状況を報告いたします。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式

総合開会式は、県立華陵高等学校主管のもと、6月18日（金）下松市の「スターピアくだまつ」で盛大に開催されました。慶祝演奏演技には、山口県立佐波高等学校の演奏のもと三田尻女子高等学校と宇部女子高等学校の2校のバトントワリング部の演技で『マイハート・ウイル・ゴーオン』『ファイナーレ・フロム・タイタニック』の2曲を披露しました。

2. 県総文祭音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続き6月19日（土）～20日（日）の2日間同会場で開催されました。参加校はステージ上でマーチングバンドのステージドリルの演奏演技を披露したのは県立佐波高等学校・三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校の3校70名の参加があり、すばらしい演奏演技を披露しました。

3. 全国高等学校総合文化祭（山形大会）

マーチングバンド・バトントワリング部門は、7月30日（金）～8月1日（日）の3日間、山形県で開催されました。パレード部門は山形市村山保健所より文翔館までの1キロメートルで行なわれ、また部門発表会は天童市の県総合運動公園（総合体育館）で開催されました。各都道府県から、パレード部門に61校。部門発表会には45校の参加があり、山口県からはマーチングバンドに宇部女子高等学校が、バトントワリングには本年度も山口県合同チームとして

三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校の2校が参加し、迫力のある演奏演技で会場から絶賛の拍手を受けました。

4. その他の活動

各校とも平素は地元での諸行事等に参加し、地域社会に貢献しています。

5. 高文連マーチングバンド・バトントワリング部総会

本年度は、3月18日（木）宇部女子高等学校で開催しました。13名の指導担当者が出席され、本年度の事業計画の反省と来年度の事業計画、全総文祭（静岡大会）の参加について、また県総文祭慶祝演奏演技の出場校の決定等多くの協議に活発な意見が出されました。

6. 部門の研修について

マーチングバンドは各校独自の方法で研修を実施しています。バトントワリング部は毎年全総文祭に山口県合同チームとして参加するために合同研修を年平均4～5回実施しています。



日本音楽部門

理事長 伊藤由紀子
(防府高等学校教諭)

平成11年度山口県高文連日本音楽部門の主な活動状況を報告いたします。

1. 第21回山口県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝演奏

本年度総合開会式は、県立華陵高等学校主管のもとに6月18日（金）下松市の「スターピアくだまつ」で盛大に開催されました。

慶祝演奏には、昨年と同様に徳山高等学校と聖光高等学校の合同で「夕べの海」を演奏しました。古くから受け継がれている音色のすばらしさを感じさせる演奏でした。日本の伝統的な音楽に触れることの少ない今の高校生にとってはとても良い機会であったのではないのでしょうか。また、箏曲は他校との交流の少ない部ですので、合同演奏が徳山高等学校と聖光高等学校の絆を深め、高文連の活動を一層盛り上げていくことになると思います。

2. 第21回県総文祭日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表大会

本年度は山口県立大嶺高等学校主管のもとに、6月20日（日）美祢市民会館を会場に開催されました。箏曲を中心にした日本音楽部門ですが箏曲は17校、吟詠部門1校、郷土芸能として和太鼓3校、能1校の参加がありました。

箏曲は各学校とも部員の確保が大変な状況ですが、少ない部員の学校も、多数の部員の学校もそれぞれに生徒は熱心に演奏し、練習の成果を発表していました。また、吟詠・剣詩舞部門は休部中ですが本年は1校の参加があり、大会を盛り上げていただきました。一方、日本音楽部門では、郷土芸能も合同で発表会を開催してきました。太鼓は早鞆高等学校の平家太鼓・山

口県鴻城高等学校の大内姫太鼓、それに今年から宇部鴻城高等学校の太鼓も参加して3校の発表となり、元気で勇壮な音が響きわたり、その熱気に会場全体が包み込まれました。そして、今年初めて三田尻女子高等学校のお能が参加をされました。謡曲・仕舞と発表があり、伝統文化の趣を会場の生徒と一緒に浸りました。

このように日本音楽部門は他の日本伝統文化芸能の発表を含み、幅の広い文化芸能としての発表の場です。箏曲・吟詠・和太鼓・能部門それぞれのすばらしい演奏、演技が披露されました。

3. 第23回全国高等学校総合文化祭「山形大会」

7月31日（土）から8月1日（日）まで山形県民会館で開催された全国大会には、山口県立萩高等学校が出場しました。

箏曲の全国大会のレベルは高いということですが、生徒は臆せず、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。また、他校のすばらしい演奏を聞いて、よい刺激となり、今後の活動をさらに大きく飛躍していく原動力となると思います。



美術・工芸部門

理事長 平田 博 英
(岩国工業高等学校教諭)

平成11年度美術・工芸部門の主な活動の報告と、感想を述べます。

1. 県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

スターピアくだまつの、正面玄関を入った、ガラス張りのエントランスホールに、他の5部門と共に展示を行ないました。ゆったりとしたスペースで、人の出入りが頻繁な場所にもかかわらず、それぞれの部門の存在感だけは十分にPRできたと思われます。

本部門では、周南地区の美術・工芸部を中心に展示用の作品を依頼しましたが、残念ながらこちらが望むような積極的な参加が見られず、結局、下松高校石丸先生のご尽力により、どうか体裁を整わせることはできました。作品の搬出入の困難さもあり、県下全域に依頼することができませんので、主管校周辺地域の学校参加という方向で、毎年慶祝展示には取り組んできていますが、数多くの美術・工芸部が参加する意義を、それぞれ関係地域校の顧問の先生方には再度認識していただきたいと、改めて痛感しました。

また、今回の総合開会式では、各部門紹介を高校生による1分内アピールの形式で進められました。理事長校でもある岩国工業高校の美術部3年生の西村修くんを拝み倒して、前日遅くまで小道具作りに精を出し、スターピアくだまつのステージ中央に押しやりました。写真部門の派手なアクション、書道部門の大きかりな道具には圧倒されましたが、美術・工芸部門らしさは十分出せたと思います。



2. 全国高等学校総合文化祭<山形大会>

3. 県総合文化祭展示部門

2、3は、それぞれの「記録」を参考に。

4. 美術・工芸部門会議

10月の中旬に、岩国工業高校を会場として部活動顧問の先生方20名が集まり、本年度の事業計画及び実施についての報告、さらに次年度への方向について話し合いました。また、部活動での問題点等、意見交換では活発に意見が出され、予定時間内では討議し尽くせないほどの盛況ぶりでした。それぞれ学校は違っても、同じ美術・工芸部として抱えている問題は、共通の内容が多かったように思えました。

事務局の資料によりますと、県内では69校に美術・工芸部（正課を含め）が存在します。会場校の地が、東の端、岩国だったということだけではないと思いますが、専門部会そのものは

盛況だったとしても、20名の参加というのは、本当に考えさせられます。運動部のように専門家ではない先生方が多数、熱心に取り組んでいる状況を考えますと、美術・工芸は門外漢だからと、消極的になっておられる顧問の先生方には、是非、積極的な参加を呼び掛けたいと思います。さらに、そういった状況を作り出してしまうことの要因には、各校の文化部に対する取り組みの弱さもあげられる気がします。

ある体育の先生から高総文に対して、「高体連だったら、主管校の先生方を総動員することなく、関係の部活動顧問だけで運営していくけど」と意見をいただきました。額面どおりに受け取るとは困難な現状がありますが、少なくとも、それを目標にし、努力することは必要なことなのかも知れません。



書道部門

理事長 古屋元子
(山口高等学校教諭)

平成11年度山口県高文連書道部門の活動状況を報告いたします。

1. 県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

式典において徳山高校荒瀬宏先生が、書道部門理事長としての長年の功績に対して高文連より表彰を受けられました。又、今年度は各部門紹介に新しい取り組みがなされ、書道部門も山口高校書道部協同作品（本年度テーマを墨書）を、ステージ一杯に拡げるパフォーマンスを試みました。代表生徒は総合開会式には初めての参加。大変感動していました。

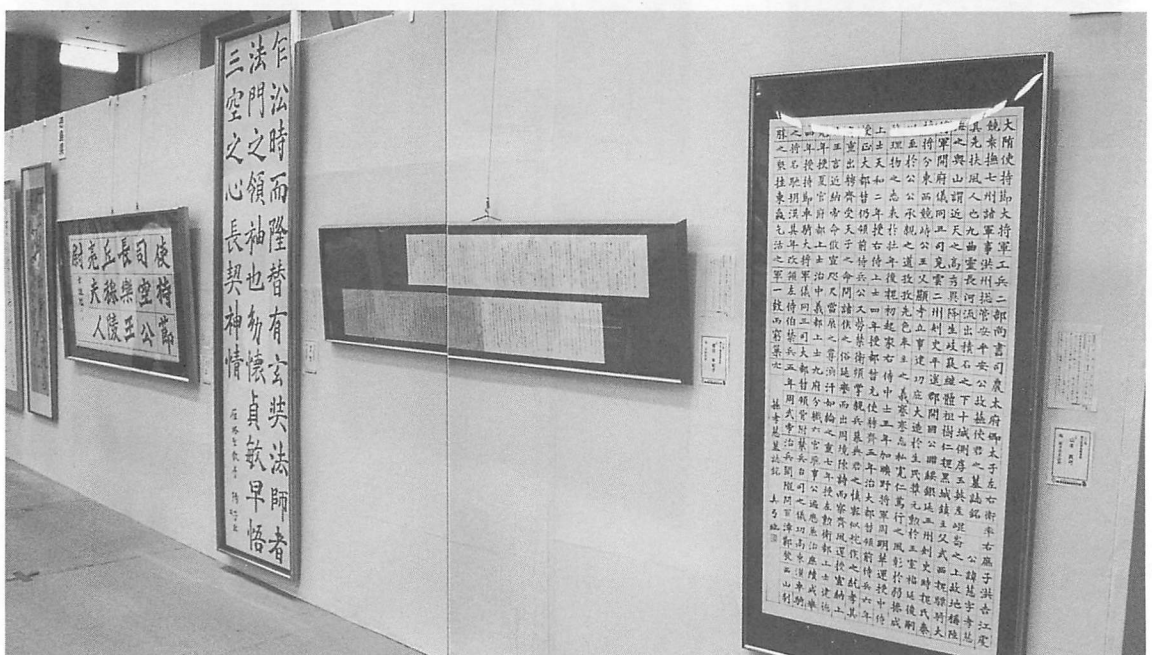
下松地区を中心に8校から出品された力作が、慶祝展示としてエントランスホールに飾り付けられ、他の5部門の展示とともに鑑賞されていました。

2. 全国高等学校総合文化祭〈山形大会〉

気温37度の山形市。7月30日～8月3日、山形県立体育館が書道部門の会場でした。広いだけの体育館をパネルで区切り、大小様々な各県代表の作品をゆったりと展示していく。これも一つの方法かと思いました。山口県の4作品（防府、宇部西、下関西、高水）は、漢字・仮名、縦・横と変化に富んだ一画を作っており、特に防府高の細字の大作の前で足を止める人を多く見掛けました。この大会は『今、高校生の書とは』を考えさせられる機会になっています。

3. 県高総文祭展示部門発表会

11月12日～11月14日、ときわ湖水ホールで開催。25校87点の出品がありました。「高校生らしい書」を期待しながら、具体的に説明出来ない悩みをかかえています。が、今回防府養護学校の藤本



三久さんの「フラワー」が優秀賞に選ばれ、その真剣さ、純な気持の溢れる書が多く示唆を与えてくれました。講評会の講師は徳山高荒瀬先生にお願いし、各参加生徒の作品の前での暖かい、適切な助言に生徒共々大いに感動しました。

4. 生徒研修会

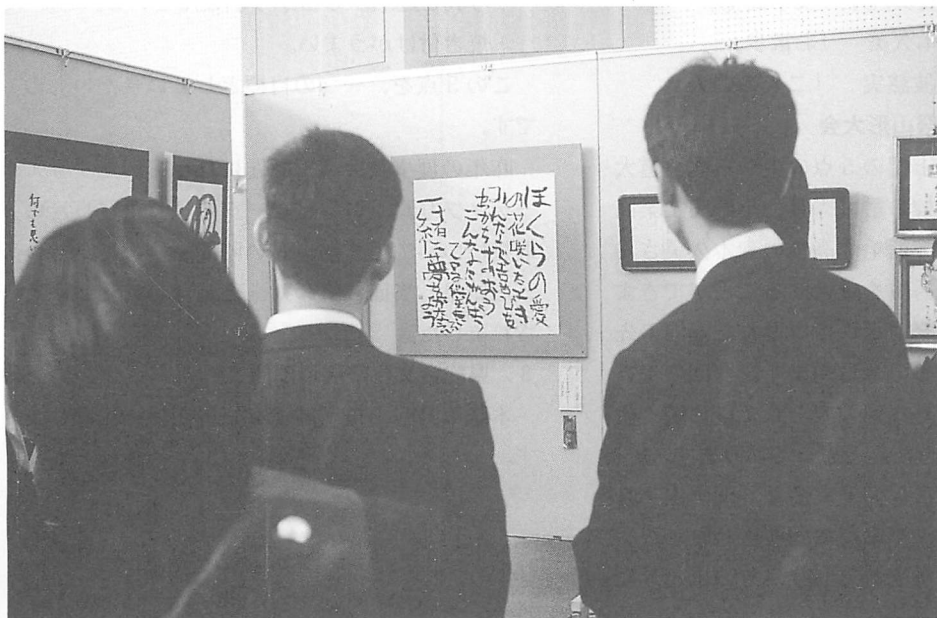
書道部門として初めての試み、生徒のための研修会を7月10日（土）、県セミナーパーク研修室で開催しました。8校約40名の参加者が狭い研修室の中、午前は県総文に向けての作品制作、午後は「芭蕉の俳句」に挑戦。昼食をはさんでの5時間はあっという間でした。面白かった、楽しかった、お弁当も美味しく来て良かった等の生徒の声に励まされ、第2回に向けての準備を始めたいと思います。

5. 山口県教員書作展

20回記念展から2年。8月26日～8月29日まで防府駅前の「アスピラート」で開催しました。今回は徳山高荒瀬先生の「還暦記念展」を併設。マンネリにならぬ様、いつも新鮮な意欲で取り組む教員の書発表の場にしたいと願っています。

6. 高文連書道部門会議

12月7日午後、下関女短付属高に書道教員15名が集まりました。本年度事業報告や来年度の事業計画、生徒研修会のあり方等について活発な意見交換がなされました。



写真部門

理事長 **大 濱 進 治**
(宇部工業高等学校教諭)

平成11年度山口県高文連写真部門の主な活動は次の3つの事業でした。

1. 山口県総合文化祭開会式慶祝展示

今年は、下松市の「スターピアくだまつ」を会場としてすばらしい式典が行われました。今回は、各部門の紹介が日頃の活動を生徒がパフォーマンスを通してアピールするという画期的な企画が加わりました。日頃おとなしく見える文化部の生徒諸君がこんなにもエネルギーを持っているのかという感じでした。この開会式で得た自信を各部門で発揮していただきたいと願っております。

写真部は、全国大会（山形県大会）に出展する下記の5点を中心に展示しました。

- 小野田高校 太鼓友恵 「フクちゃん」
- 小野田高校 松尾 晃 「父ちゃんの一休み」
- 徳山高校 木村真理子「女子高生」
- 熊毛北高校 寺本久美 「お散歩」
- 高森高校 筑波慈実 「二人の釣人」

2. 全国総合文化祭山形大会

山形大会では、上記の5点の中から北海道大会での美祿工業高校の最優秀賞、小野田工業高校の優秀賞に次いで熊毛北高校の寺本久美さんの「お散歩」が優秀賞を受賞することができました。寺本さんの努力とご指導された顧問の先生の熱意が実ったものと思います。今回の受賞は、山口県高文連写真部の宝として後に続く生徒諸君に伝えていきたいと思っております。

写真部門は、山岳信仰で有名な「羽黒山・月山・鳥海山」の麓、酒田市で開催されました。酒田市には最上川が流れており、そのほとりに

は酒田市が生んだ写真の鬼と呼ばれた土門拳の「土門拳記念館」が建っています。そのような環境の中で写真部門の行事が開催されることに生徒諸君は感激を隠すことができないようでした。撮影会は、酒田市美術館を中心に班編成し講師の先生方の指導が行き届くように配慮されたものでした。気温が38℃を超える猛暑の中での撮影会でしたがすばらしい指導者の助言で充実した一日でした。

今回の作品群を見て感じたことは、一工夫、二工夫した作品が多くなっていることです。ストレートな作品が高校生らしいと思っていましたがプロの好む作風がどんどん出てきています。

ここで山口県写真部が特に見習わなければならないと思うことを次に挙げておきます。

- ・仕上げが丁寧である（特に組写真の仕上げがすっきりしていて写真が読みやすい。）
- ・写真と題名がしっかり馴染んでいる。
- ・焼き付けがうまい。

この3点を、一つの目標としていきたいものです。

昨年の理事長会議で話題になっていたクリエイティブ写真（コンピュータ処理した写真）の取扱についてですが、長い時間をかけて話し合った結果、当面、賞の対象としないことに決定されました。

3. 県総合文化祭展示部門

本誌第21回山口県高総文祭の記録に掲載します。

囲碁部門

理事長 安藤 公隆
(下関工業高等学校教諭)

囲碁は子供から大人までいっしょに楽しめるゲームです。日本古来の精神スポーツです。中国ではスポーツ省の中に位置づけられています。囲碁には、芸術、哲学があり、創造性があります。囲碁を通しての「先を読む」こと、「考える」こと、「自己との戦いに克ち決断する」ことは人生の勉強に通じるものがあります。また、頭を鍛えることにより集中力が増し、学力も向上します。いろいろな意味で囲碁は役に立ちます。本年度の囲碁部門大会は昨年より11名増の参加があり、更に盛んになって行くことを期待します。



さて平成11年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は以下の通りです。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

6月18日～20日までスターピアくだまつで開催されました。囲碁部門の慶祝展示は会場の関係で鳥取の全国高校総文大会の対局風景の写真の四つ切り2枚を掲げました。

2. 第21回県高総文祭囲碁部門第11回大会

兼全国高校総文祭囲碁部門第13回大会県予選は10月24日(日)に下関工業高校で開催され、参加人数は男女合わせて79名でした。

4回の対局で行なわれ、成績は次の通りでした。

＜団体戦＞男子 優勝 防府高等学校
準優勝 徳山工業高等学校
第3位 下関西高等学校
第3位 山口高等学校
女子 優勝 宇部高等学校
準優勝 徳山工業高等学校

＜個人代表決定戦＞

男子 優勝 小野慎吾 新南陽高等学校
女子 優勝 吉永弥咲 徳山工業高等学校

＜団体代表決定戦＞

男子 優勝 足立史招 水産高等学校
優勝 岡田一貴 宇部高等学校
女子 優勝 岡村美奈子 宇部高等学校

団体代表決定戦、個人代表決定戦の勝者は、平成12年8月7(月)～8(火) 静岡県での全国高校総文祭に出場する予定です。

3. 第23回全国高校総文祭

囲碁部門第12回大会

平成11年8月2日(月)～3日(火)、山形県山形市総合福祉センターにて開催されました。山口県代表は前年度の県予選の優勝者が出場しました。皆よく健闘しました。団体戦は全国9位、男子個人選は14位、女子個人戦は17位と前年よりも躍進しました。

4. 県高文連囲碁部門研修会

平成12年2月13日（日）、山口市の山口南総合センターで開催されました。

渡辺堅一プロ（日本棋院六段）による全国大会出場者及び有段者クラスの者への対局指導、また教員による指導碁等を行ないました。対局終了後、渡辺プロの適切な助言をいただき、生徒はより高い次元の碁に接し、実に有意義な一日でした。



▲全国高文祭（囲碁部門大会）

演劇部門

理事長 三 藤 真 人
(厚狭高等学校教諭)

今年は行事を追って、この一年をふり返って
みることにする。

1. 県高等学校演劇講習会

5月23日(日) 9:30~16:00

下松市 東洋鋼鈑体育館

講師/知念正文氏(劇団「鳥獣戯画」主宰)
ウォーミングアップから筋力、ストレッチ、
ダンス。

発声訓練、身体表現、リアルな姿勢と動作せ
りふまわし。

感じることから表現へ、表現の知識と技術
を教えていただく。

ダンスの発表で幕となったが、県下から約
20校120有余名の演劇部員が参加。

熱心に御指導いただいた知念先生、受講生
の体を動かす作業と演技とダンスと必死で取
り組んでいたのが印象的だった。

2. 県高校総文祭総合開会式

6月18日(金) 午後、スターピアくだまつ。

今年の各部門の紹介が、部門から出された
代表の生徒たちによってなされたこと。色々
新鮮な印象もあった。

また、演劇部門も今年始めてホールの慶
祝展示に加えていただいた。舞台の写真撮影
が非常に困難な演劇だが、昨年の中国大会に
出場した岩陽高等学校と田部高等学校の写真
を展示できた。

3. 地区大会

下関地区の8月19日(木)に始まり、他地
区の21日(土)22日(日)にわたる夏しめく
くりの地区大会。様々な形で、各校とも稽古
を積み、工夫を凝らし、部員総力をあげて燃

焼する夏。ことしも夏休みはこの地区大会を
終えてのわずか数日だった。

地区大会が面白い。県下の全ての演劇部の上
演が可能で、型にはまらない自由さがあり。脚
本も幅広く、各高校の趣向が豊かに思い切って
表現される。活動・交流を共にしている近隣の
親しい仲間の舞台演技だから観客としても舞台
と一つになれる。ある意味で芝居というものは
これがその楽しみの柱なのかとも思う。

こうした中でも各地区から2校・1校の県大
会出場校が厳しく選ばれる。喜びと悔しさが入
り交じる。

4. 第21回県高校総文祭

今年の演劇部門の大会は10月22日(金)のリ
ハーサルを経て23日(土)24日(日)と、周防
地区は岩国の“シンフォニア岩国”で開催。詳
しくは別頁にまとめるため、ここでは大会を主
催してもらった岩陽高校と周防地区ことに岩国
の各校に感謝の意を表したい。

大変お世話になりました。

5. 中国地区高校演劇発表会

11月21日(日)と22日(月) 島根県大田市の
市民会館大ホールでの第37回発表会。

例年のように中国地区各県2校の代表校と開
催県プラス1校の11校の上演。山口県代表は10
月の県大会で選抜された防府商業高校の「コン
クリート・フーガ 虹色の闇から」と、岩陽高
校の「ここだけの話」。防府商業の2年生部員
は中国への修学旅行をけて本、中国大会への
出場だったとか。

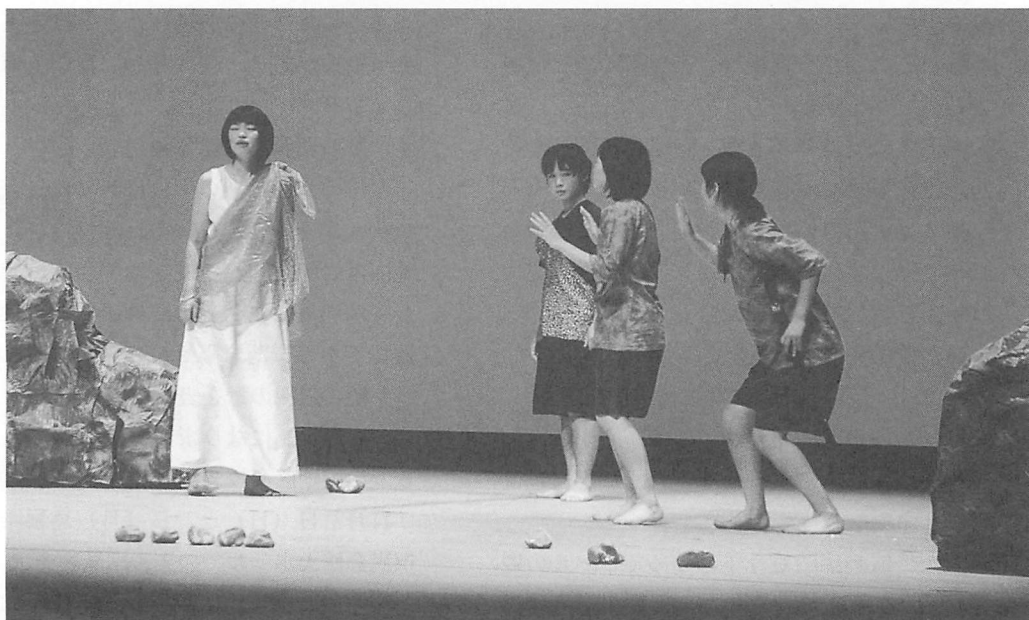
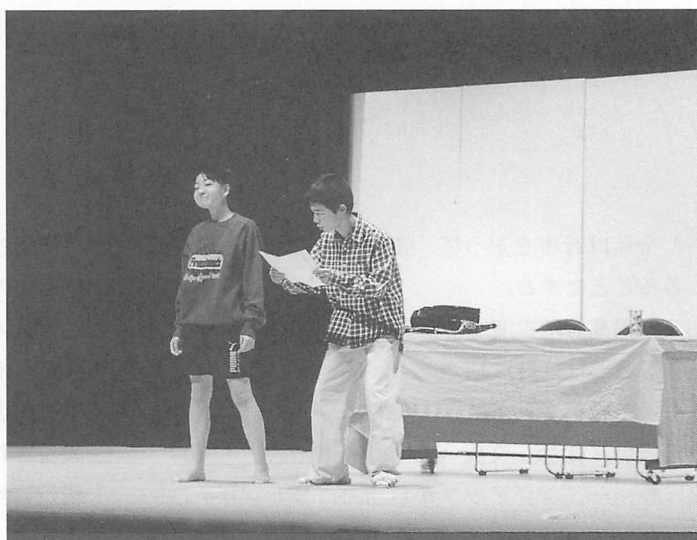
中国大会に名乗りをあげる11校だけあって、
見ごたえのある舞台。創作も多様にみられ充分

味のある大会となった。

大会を支えてもらった島根の仲間。大田高校の1年生2年生の全員観賞。刻々と上演校・作品・観覧者の感想を報道してくれた“大会だより”のプリント。温かい高校演劇発表会の原点か！という声もあった。広島代表の鈴ヶ峯高校が全国大会に抜擢された。

6. 全国総文祭

今年度の全国大会は、山形市であったが、その初日7月31日（土）に第一上演をしたのが中国地区で最優秀校として出場した岩陽高校。入場そのものがあやぶまれる大観衆を前に堂々の演技をみせてくれた。記念すべき大会だった。



放送部門

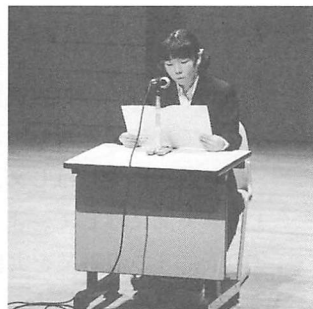
理事長 青木 幸子
(山口農業高等学校教諭)

1. 県高総文祭総合開会式

本年度は、華陵高等学校主管のもと、6月18日、スターピアくだまつを会場に県総文祭総合開会式が行なわれました。しゃべることも、撮ることも、そしてプロデュースその他、放送活動全般にわたって大活躍の華陵高放送部員、力を大結集して、みごとな司会進行を行なってくれました。とりわけ、今年初の試みとして各部門紹介を“ライブ”感覚でやってみよう！生徒が主体の、生徒のための文化祭であることが、華陵高校の式全体のポリシーであったこともあり意欲的なステージとなりました。従来の映像にあわせて、アナウンスで進めていく紹介は、ややもすると平板で、インパクトが乏しくなりがち…という痛いコメントばかり耳にしておりましたので、今回の画期的試みが大成功に終わったことで、これからの部紹介への一つの新しい方向性が生まれたような…そんな御意見もいただき、生徒そして、指導にあたられた先生もホッとしました…との声を聞いています。

2. 全国総文祭・山形大会

8月1・2日の2日間“ベニーちゃん”の温かい歓迎を受けて山形入りした山口県代表チーム。しかし、38℃というあまりの暑さに、ここは本当に東北の地なのだろうかと思うほどでした。生徒が主体的に動く姿に感動するシーンが多々あった大会の中で、山口県チームと、山形の生徒とのたくさんのふれあいシーンがあまりに強烈だったらしく「山口に帰らず山形に住みたい」と言い出す生徒も続出。山口弁講座、のんたは生きている…とビデオ、オーディオが各々方言をテーマにしたものであっただけに、他県の生徒との話題をはずませる原動力ともなっていました。会場を沸かせた両作品のうち『のん



たは生きている』は特別賞を受賞。制作に当たった山口高校3年の有田敬子さんは「がんばってつくって本当によかった。私にとって最高の夏になりました」と目をキラキラさせて喜んでいました。全国大会に行くたびに県全体の結束も深まっていく、そんな大会でした。

3. 県高校総合文化祭放送部大会

昨年にひき続き山口農業高校の主管で11月7日ニューメディアプラザ山口で、第6回放送部大会が開かれました。参加校並びに参加作品が年々増え、審査にいらっしゃった山口放送の勝正男アナが「3人をしばりこむのは難しすぎる」と悲鳴をあげられるほど、実力伯仲でした。

午後からの作品部門の発表になると会場も和気藹々、他校の作品に感動したり、感心したり。最後は、他校との交流を深めながら、6月のコンテストでの再会に向け堅い約束を交わしあっている光景があちこちでみられました。

4. 放送部研修会

「ぜひ、西澤先生の指導を」という全県高校生の熱いエールにこたえて、多忙な中、西澤先生が8月1日、山口の地においで下さいました。一人一人の指導をしたいと、おっしゃる先生のリクエストに各校3名ずつエースを出して、大先生による厳しくも心あたたまる指導を受けることができました。

将棋部門

理事長 弘中 敏之
(防府商業高等学校教諭)

本年度は、山口県高等学校文化連盟に正式加盟して4年目となり、小さな組織ながらその活動も軌道に乗りはじめた感があります。事務局も県央部に移して、より一層きめの細かい運営の下、3つの事業を実施しました。

1. 山口県高等学校総合文化祭開会式典の 慶祝展示

下松高校主管のもと、6月18日（金）から20日（日）にかけてスターピア下松において開催。先行して行なわれた部門大会の様子を収めた写真2点が展示されました。

設営に当って、本部門の理事である熊毛南高校の古谷先生と主管校の西元教善先生、会場の設営に携わっていただいた岩国工業高校の平田先生や華陵高校の先生方や生徒の皆さんに大変感謝しています。

2. 第21回山口県高等学校総合文化祭 将棋部門大会 兼

第35回全国高等学校将棋選手権大会県予選

防府商業高校主管のもと、5月30日（日）に中国新聞山口支社3階ホールにおいて開催されました。個人戦と団体戦に、前年を上回る11校57名が参加し激しい戦いが展開されました。個人戦では1年生ながら防府高校の近江徹哉君が、団体戦では宇部高校（山縣弘嗣・見坂卓郎・馬場祐樹の3君）が優勝し全国大会出場の栄誉を手に入れました。また、同校より女子の参加もあり、男子に混じって個人戦を健闘、堂々ベスト

4に入る活躍を見せました。さらに、個人資格で参加した全国大会でも他の都道府県の選手を次々に下して3位に入る活躍でした。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

防府商業高校主管により、11月7日（日）防府市文化福祉会館で行なわれました。理事の諸先生を中心とした大会運営の研修と、1・2年生の男子7校38名の棋力向上を図る内容でした。指導対局については、元西日本名人の松本誠アマ五段（防府市在住）をはじめとした県下のトップアマの御協力をいただきました。

研修対局では防府高校1年の近江徹哉君と宇部高校2年の浦野亘弘君が好成績を収めました。

ここ4年間、牛歩の歩みながら着実に組織的な活動が定着してきました。多くの課題は残されていますが、皆さんの更なるご理解とご協力をよろしくお願いします。



第21回 山口県高等学校総合文化祭の記録

総合開会式

会場：スターピアくだまつ

主管校 和田道明
(華陵高等学校教諭)



第21回山口県高等学校総合文化祭総合開会式は『発動！ 青春の魂 文化の雄飛』をテーマに平成11年6月18日（金）スターピアくだまつで開催されました。

中規模校の主管で、教員数が少なく地区の学校から多数の先生方に補助員として協力していただきました。また駐車場が遠く雨天の際は楽器を持って長い距離を歩いてもらうことになり、天候がとても心配されました。

河村憐次下松市長・牛見正彦山口県教育委員会教育長をはじめ多くの来賓をお迎えし、各専門部500名以上の慶祝演奏の出演者と、主管校華陵高校の全職員・全校生徒・PTA、それに一般の聴衆で満席の中、華やかで感動的な総合開会式となりました。

式典前に西日本初初の光ファイバーを織り込んだ緞帳で下松の雄大な光景が描かれ、下松市の

名前の由来の物語が色鮮やかに映し出されると、聴衆から拍手と歓声が上がりました。

式典は、華陵高校生徒会副会長・佐伯達也君の堂々とした開幕宣言で始まり、徳山地区合同吹奏楽団160名によるファンファーレが高らかに会場に鳴り響きました。指揮者は徳山北高校の石川雅起先生で、自らファンファーレを作曲され、タクトを振られました。

続いて「高文連の歌」の演奏によって各専門部代表が入場されました。

牛見正彦教育長、西田昇高文連会長、主管校生徒代表として道遊梨奈生徒会長挨拶、河村憐次下松市長の歓迎の言葉、そして高文連功績賞として森本紘史前高文連会長と荒瀬宏元書道部門理事長が表彰されました。森本紘史先生は、平成8年度から10年度まで高文連会長として尽力され、組織の確立と文化活動の発展に寄与さ

れました。荒瀬宏先生は平成元年度から平成9年度まで書道部門の発展に寄与されました。

また、今年度のテーマ最優秀賞は華陵高校2年の村上浩基くんが表彰され開幕式典が終了しました。

続いて、専門部紹介に移りました。例年は各部門をスライドで紹介されましたが、今年は高校生の生の声を通して各専門部ごとにステージ上でパフォーマンスを見せてもらいました。初めてのステージにもかかわらず、各部門なりの創意工夫がみられ客席と一体となった楽しいひと時を過ごすことができました。

13時50分からの慶祝演奏は、オープニングとして約160名による徳山地区高等学校合同吹奏楽団による演奏が行なわれました。たった2回の合同練習にもかかわらず、難曲を見事に歌い上げ感動的なステージとなりました。続いて三田尻女子高校と宇部女子高校のバトントワリングと佐波高校のマーチングバンドによる華やかな演技・演奏が行なわれました。そして徳山高校

と聖光高校による箏曲の演奏が行なわれました。琴の持つ優雅な音色に聴衆は魅了されたようでした。最後に約300名の山口県高校合同合唱団と100名の山口県高校合同管弦楽団による「大地讃頌」そして「タンホイザーより大行進曲」で慶祝演奏のフィナーレを飾りました。400名の演奏はホールに響き渡り、圧倒的な迫力で観客を魅了しました。主管校の華陵高校の全生徒・全職員は、初めて聞く大編成の音楽に酔いしれたようでした。

山口県高等学校総合文化祭を担当しての今後への引き継ぎ事項は、地区音楽教員の仕事の分担・専門部会紹介の企画・運営方法・慶祝演奏の規模の検討・開催時期など数々の問題点を残していると思います。

最後にこの大会を運営するにあたって多くの先生方や諸機関のご支援を賜り、無事終了することができましたことを心からお礼申し上げます。

来年は、防府でお会いしましょう。





▲上梶友記子（岩国高校）さんのイラストを基にしたポスター



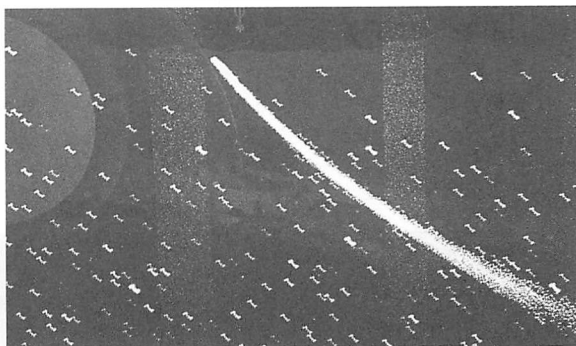
▲総合開会式会場駐車場風景



▲表彰式風景



▲受付風景



▲アトラクション



▲慶祝展示



▲幕間のインタビュー

◇慶祝演奏

<吹奏楽>

“音楽祭のプレリユード” “日本愛唱歌集”

【指揮】福田 望

【演奏】徳山地区高等学校合同吹奏楽団

<マーチング・バトントワリング>

『マイハート・ウイル・ゴーオン』

『フィナーレ・フロム・タイタニック』

【出演】佐波高等学校

三田尻女子高等学校

宇部女子高等学校

<日本音楽>

『夕べの海』

【演奏】徳山高等学校

聖光高等学校

<合唱・器楽管弦楽>

『大地讃頌』『タンホイザー』より大行進曲

【指揮】和田道明

【演奏】山口県高等学校管弦楽団

<全員合唱>

『翼をください』

▼徳山地区高等学校吹奏楽団

◇慶祝展示

<美術・工芸>【出品校】下松 華陵 徳山

……各高等学校

<書道>【出品校】下松 華陵 熊毛北 光

光丘 聖光 徳山 徳山商業……各高等学校

<写真>【出品校】高森 熊毛北 小野田

徳山 光丘……各高等学校

<囲碁>【出品校】下関工業高等学校

<将棋>【出品校】下松 熊毛南 …各高等学校

◇進行アナウンス

華陵高等学校文芸・放送部

◇合同編成出演校

・山口県高等学校管弦楽団

柳井 防府 山口中央 下関南

下関第一 ……………各高等学校

・山口県高等学校合唱団

安下庄 岩国 防府 山口中央 宇部

宇部中央 下関西 萩 奈古 高水

中村女子 野田学園 香川 サビエル

…………各高等学校

・徳山地区高等学校吹奏楽団

光 光丘 熊毛北 下松 華陵 下松工

業 徳山 徳山北 徳山商業 徳山工業

南陽工業 山口県桜ヶ丘 …各高等学校



県高総文祭・音楽関係4部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：スターピアくだまつ

理事長 **松永忠雄**
(下関南高等学校教諭)

平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係4部門発表会は6月18日（金）、19日（土）、20日（日）の3日間にわたり、“スターピアくだまつ”において例年の如く、高文連各部門のトップを切って開催されました。また、初日の18日（金）には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行なわれました。

器楽・管弦楽部門でも昨年同様、合唱部門と合同で式典の慶祝演奏に参加しました。今年はオーケストラの編成を5校99名で組織して、300名を超える合唱と美しいハーモニーをホールいっぱいに響き渡らせました。演奏曲目は「大地讃頌」「タンホイザー大行進曲」の2曲です。合同練習は当日の午前中だけという厳しい状況の中、和田道明先生（華陵高）の適確な指揮の

もとで、開幕式典にふさわしく、輝かしい音楽が見事に演奏されました。その演奏は聴衆の方々に深い感銘を与えたことと思います。

さて、当日の式典後から3日間にわたって開催された音楽関係4部門発表会の器楽・管弦楽部門には今年度もオーケストラ5校、ギター、マンドリン合奏2校の出演があり、多数の参加のあった吹奏楽部門（50校）に混じって、一服の清涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

今回の防府大会ではさらに練習に励み、研鑽を積んだ成果が十分に発揮されることを期待しています。

▼山口中央高等学校

第21回山口県高等学校総合文化祭

総合開会式並びに音楽4部発表会

発動！青春の魂文化の雄飛



合唱部門

会場：スターピアくだまつ

理事長 **有 富 美 子**
(萩高等学校教諭)

平成11年度第21回山口県高等学校総合文化祭の音楽4部門の発表会は6月18日（金）、19日（土）、20日（日）の3日間にかけ、「スターピアくだまつ」にて盛大に開催されました。18日の開幕式典では、例年のように器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。

オーケストラと355人の大合唱は、ホール一杯に響き渡り、大いに盛り上がりました。日頃小人数で演奏活動をしている生徒達にとってはもちろんのこと、聴衆の方々にも深い感銘を与えたことと思います。

その後、音楽4部門の発表に移りましたが、高校生の熱心な演奏が続きました。

「スターピアくだまつ」は、音響もよく小人数の合唱も美しく柔らかに響いていました。

合唱部門の出演校は12校（岩国、奈古、萩、高水、山口中央、サビエル、香川、宇部中央、野田学園、防府、宇部、萩光塩学院）、出演者数は271名でした。生徒数の減少とともに合唱部の部員もかなり少なくなってきました。各校、悪戦苦闘のことと思いますが、音楽の原点である『歌う』ことの素晴らしさに、出会えるよう心より願っております。

発動！青春の魂文化の雄飛



▲高水高等学校

吹奏楽部門

会場：スターピアくだまつ

主管校 **和田道明**
(華陵高等学校教諭)

第21回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は6月18日（金）、19日（土）、20日（日）の3日間、“星降る町”下松市の「スターピアくだまつ」で開催されました。

吹奏楽部門として例年の通り開幕式典に徳山地区12校（光、光丘、熊毛北、下松、華陵、下松工業、徳山、徳山北、徳山商業、徳山工業、南陽工業、山口県桜ヶ丘）合同吹奏楽団約160名を編成し、徳山北高校の石川雅起先生の指揮で、自ら作曲された「ファンファーレ」そして「高文連の歌」で華やかに開幕し、慶祝演奏では下松高校の福田望先生の指揮で「音楽祭のプレリュード」「日本愛唱歌集」の2曲を演奏しました。

力強くすばらしい演奏を披露してくれました。

音楽4部門発表会は、18日から20日の3日間にわたって行われました。吹奏楽部門は、県内から43校1,658名の参加がありました。年々レベルの向上には目を見張るものがあり、各校とも吹奏楽の持つ輝かしく力強いサウンドで聴衆を魅了しました。

一日の最後には、防府西高校・山口高校の伴奏で「翼をください」を全員合唱し、感動の中で閉幕しました。

来年度は、“防府市公会堂”で開催されます。すばらしい演奏を期待しています。



▲防府商業高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：スターピアくだまつ

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

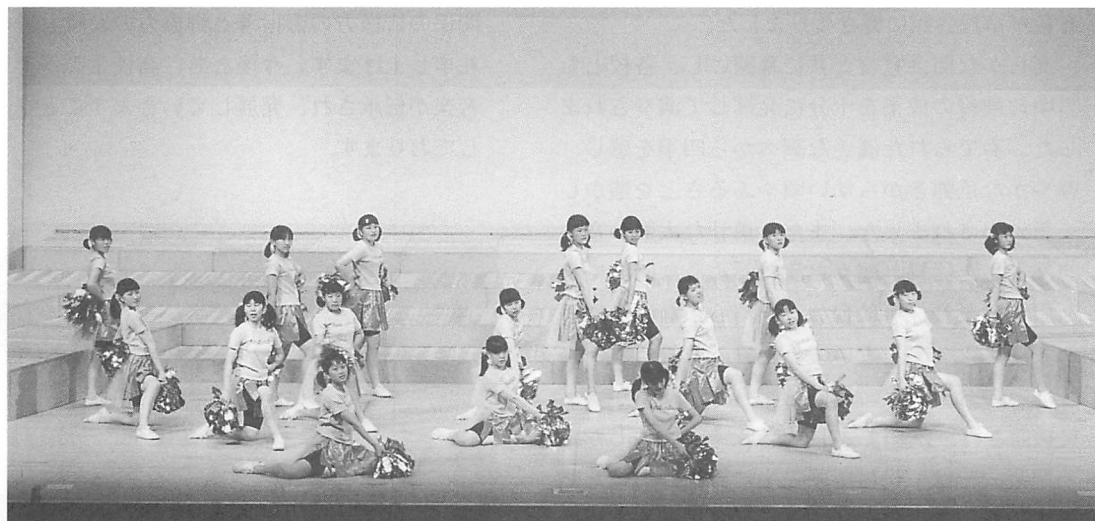
第21回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、総合開会式終了後の6月18日（金）、19日（土）、20日（日）の3日間スターピアくだまつで開催されました。マーチングバンド・バトントワリング部門には3校90名の参加がありました。18日（金）の慶祝演奏演技には、県立佐波高等学校の演奏のもと、三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校の演技で『マイハート・ウイル・ゴーオン』『フィナーレ・フロム・タイタニック』の2曲を披露しました。音楽4部門の発表ではマーチングバンドでは県立佐波高等学校『喜びの歌』の曲でステージドリルを行ない、バトントワリングでは宇部女子高等学校の『ゼロ・トウ・ヒーロー』、三田尻女子高等学校の『ミッションエノ』の演技を行ない、ステージいっぱいに各校とも特色のある演奏演技を行ないました。

県総文祭に参加して

三田尻女子高等学校 村岡真理子
『ミッキーマウス』『ミッキーマウス』私達の手によりファンタスティックな舞台にミッキーマウスが登場。と言いたところですが、入学したばかりの1年生、ちょっぴり大人になった2年生、少ない人数の3年生……。キャプテンとしての私は、何の大会よりもパワーに燃えた大会の一つとなりました。特にバトンが第3の手となり、見る人たちの目に、心に感動を与える喜び、そしてバトンをキャッチした時の技への拍手。同じ高校生の皆さんからいただいた声援は今までに味わったことのないもので最高にうれしかったです。この感動をさらに求め、全国大会へのステップにつなげてゆきます。スターピアくだまつに集まった皆さん、ありがとうございました。



発動! 青春の魂 文化の雄飛



第21回 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式並びに音楽4部発表会

発動! 青春の魂 文化の雄飛



第21回山口県高総文祭の記録

県高総文祭・日本音楽・吟詠剣詩舞部門

会場：美祢市民会館

主管校 **岡山律子**
(大嶺高等学校養護教諭)

『発動！青春の魂 文化の雄飛』というテーマのもと、第21回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・吟詠部門発表大会が平成11年6月20日、美祢市民会館で開催されました。

大会には、県内各地から21校175名の参加があり、当日は梅雨の晴れ間にふさわしい爽やかな音色が市民会館に響き渡りました。

高らかな開会宣言と共に幕開けし、各校とも日頃の練習の成果を十分に発揮して演奏されました。奏でられた優美な調べから四季を感じ、軽やかな爪弾きから幼い頃やふるさとを懐かしく思い出されました。また、勇壮な太鼓の音や悠然とした仕舞、朗々と流れるような吟詠に身も引き締まり、箏に合わせた清らかな唄声に思わず聞き入ってしまいました。三味線やファゴットとの合奏など、趣向を凝らした演奏が次々に披露され、会場は一日中熱気に包まれました。

閉会式では、松村房子先生に御講評をいただきました。先生の御助言から、各校とも来年に繋がる新たな目標を確認しあえたことと思います。また、次期主管校の岩国商業高校中村行宣校長の御挨拶で大会を終了しました。

最後に、主管校として今大会をお引き受けし、文化部の生徒並びに全教職員で運営に当りましたが不行き届きも多く、出場校の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。大会を無事終えることができましたのも、日本音楽・吟詠部門理事長伊藤由紀子先生を始め、関係の皆様方の御指導と御協力のお陰と厚くお礼申し上げます。今後とも、高校生の手で日本音楽が伝承され、発展していきますことを念願しております。



第21回山口県高等学校総合文化祭 日本音楽・吟詠部門発表大会

『発動！青春の魂 文化の雄飛』



県高総文祭・展示関係部門

会場：美術・工芸部門……ときわ湖水ホール

書道、写真部門……ときわ湖水ホール

主管校 **松田政道**
(宇部西高等学校教諭)

前回の担当校・萩光塩学院高等学校の橋本先生から、宅急便で丁寧に整理された見事な資料が届いた。ワァー今度は私がやるのか。気軽に考えていたのだからあまりの多さに息を飲んでしまった。便箋に「お疲れ様です。頑張ってください。先生なら出来ます。」という心暖まるおことば。……嬉しかった。

準備委員会を何回か開き、ほぼ今回の募集要項が完成。又、会場下見、打ち合わせと順調に進んでいった。

そして一ヶ月前。看板を頼んだり、人員の配置、動員計画、弁当の手配やら道具用具の準備等々。いやいや、テープカットの御案内、挨拶文の依頼、音響設備がまだだと本当に一人では手が回らなかった。本校の美術部、写真部の顧問の先生方の御協力、また、職員室で仕事をしていると皆が手伝ってくださったりと、忙中に感（謝）ありだった。

11月11日飾り付け。市内の各校から集まった生徒さん達の手際よい搬入と、飾り付けで今までガラランとしていた、ときわ湖水ホールが美術館に変身したのだ。常盤湖に沈む夕陽がこの会場にも優しい光を届けてくれている。大ガラス窓からの自然スポットライトである。

展示が終了した時点で、「優秀賞」「全国総文出品候補作品」を選ぶ審査会が始まった。審査にあられた先生方は熱心に一点一点慎重に鑑ておられた。

12日（金）初日。テープカット。

文化連盟書道部会長の福田徳郎・山口高校長先生をはじめ七名の来賓を迎え、挨拶をいただいた後、主管校の小林俊彦・宇部西高校長の祝辞、生徒を代表して宇部西高校生徒会長が歓迎のことばを述べた。続いてテープカットがあり、展示部門が幕開けした。

13日（土）この日210名入場。

14日（日）最終日。今回初の試みで、表彰式を行う。各部門の「全国総文出品候補作品」等選ばれた生徒を対象に、各部門の理事長が電話で依頼した。何と全員が出席！やってよかった。天気も良好、BGMもとてもよく屋外の表彰式は大成功であった。

講評会、各部門に分かれて、本日出席している生徒の作品を丁寧に講評していく。生徒は自分の作品を批評される時は緊張しているがそれが済むとホッとした表情になり、友達の講評に



も熱心に耳を傾けていた。生徒が専門家らと意見を交換したり、気軽に質問が出来る雰囲気があるととても充実すると思う。又、別の部屋を用意しておいて、そこでジックリと話を聞くことも必要ではないかと感じた。もう少し検討の余地がある。

搬出。講評会が終って、遠方から鑑に来た人は自分の作品を今すぐ持って帰りたいと言う。展覧会の終了時間まで待てないと。これも今後の課題だ。

搬出に集まってくださった市内の生徒さん達と先生方の御協力により、アっという間に片付いた。皆さんよく動き、よく働く。

＜お礼＞この展覧会に出品していただいた生徒さんありがとう。裏方として、搬入搬出、受付、テープカット司会進行、放送、接待、動員等を担当された宇部、小野田地区の生徒さん、先生方、たいへんお世話になりました。皆様方の暖かい御協力のお陰で無事終えることができました。心を込めて、ありがとうございました。

今回は、山口市でお会い出来るのを楽しみにしています。



第21回県総文祭展示部門出品校一覧表

	学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真		学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真
01	安 下 庄				48	田 部			
02	久 賀				49	西 市	5		
03	岩 国	3	4		50	豊 浦			
04	岩 陽	4	4		51	長 府	5		
05	岩国商業				52	下 関 西		4	2
06	岩国工業	3			53	下 関 南		4	
07	坂 上				54	下関第一		4	
08	広 瀬				55	中央工業			
09	高 森				56	下関工業			
10	柳 井		2		57	響			
11	柳井商業				58	豊 北			
12	柳井工業				59	日 置			10
13	熊 毛 南				60	大 津	5	4	
14	田布施農業				61	水 産			
15	田布施工業				62	萩	6		
16	光				63	萩 商 業	5	4	
17	光 丘			7	64	萩 工 業			
18	熊 毛 北	4	3	10	65	徳 佐			
19	下 松				66	奈 古			
20	華 陵				67	盲			
21	下松工業				68	聾			
22	徳 山		4	6	69	岩国養護			
23	徳 山 北				70	田布施養護			
24	徳山商業				71	徳山養護			
25	徳山工業				72	防府養護		4	
26	鹿 野				73	宇部養護			
27	新 南 陽				74	下関養護	2		
28	南陽工業			10	75	萩 養 護			
29	佐 波				76	下関商業	5		
30	防 府		4		77	高 水	5	4	
31	防 府 西	3		9	78	柳井学園			
32	防府商業				79	聖 光			
33	山 口	5	4	6	80	桜 ケ 丘			
34	山口中央	5	4		81	三田尻女子			
35	西 京	4		10	82	多々良学園			
36	山口農業				83	中村女子	4	4	
37	宇 部	5		1	84	野田学園		4	
38	宇部中央	5	3		85	山口鴻城			
39	宇 部 西	5	4	3	86	宇部鴻城			7
40	宇部商業	5	2		87	宇部女子	5		
41	宇部工業		4	10	88	美祢中央			
42	小 野 田			5	89	香 川	5	3	
43	小野田工業				90	サビエル	4		
44	厚 狭	5	1		91	早 鞆			
45	美 祢				92	下関女短大付属		1	
46	大 嶺				93	長 門			
47	美祢工業			5	94	萩光塩学院	5	4	

※各部門欄は出品数

出品作品数	117	87	101
総 数	305		
出品校数	26	25	15

第21回 県高総文祭展示部門・優秀作品一覧

美術・工芸部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
西京高等学校	2	遠藤 秀樹	友人像	◎
宇部中央高等学校	2	東山沙弥香	翼	◎
下関商業高等学校	1	光末 愛美	生命	◎
宇部女子高等学校	2	高橋 志穂	虚妄月暈	◎
山口高等学校	2	倉増 淑子	Uさんの像	◎
岩国高等学校	3	上梶友記子	世界	
岩国工業高等学校	3	西村 修	容器ごろごろ	
岩国工業高等学校	2	片山 陽彦	静物 - その1 -	
山口高等学校	3	磯村 香織	自画像	
宇部商業高等学校	3	上田 花菜	この森は渡さない	
宇部中央高等学校	3	針間 慶子	静物	
下関商業高等学校	2	山本久美子	H. O. L. E	
萩工業高等学校	2	田中 瞳	私 (1999.10.10)	

書道部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
徳山高等学校	2	永松 友香	臨書譜	◎
防府高等学校	2	長谷川良純	臨 始平公造像記	◎
山口高等学校	1	有田 陽子	臨 孔子廟堂碑	◎
高水高等学校	1	米本 敬	臨 木簡	◎
宇部西高等学校	2	在原 宏美	臨 李嶠雜詠	
下関西高等学校	2	川邊さやの	臨 魏靈藏造像記	
下関第一高等学校	1	伊藤奈緒子	臨 興福寺断碑	
防府養護学校	3	藤本 三久	フラワー	
中村女子高等学校	2	村田 瑞穂	臨 風信帖	

写真部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
宇部工業高等学校	1	藤井 昭光	鉄道員	◎
宇部工業高等学校	2	鈴川 俊介	勝ちにいけ！！	◎
宇部工業高等学校	2	西村治、鈴川俊介	警告 (WARNING)	◎
下関西高等学校	2	蒼下 和敬	夏のわすれもの	◎
小野田高等学校	1	岡 真樹子	うまく撮れたよ	◎
南陽工業高等学校	3	大本 貴昌	睡眠	
宇部工業高等学校	2	西村 治	ダディ	
南陽工業高等学校	3	大本 貴昌	あなたは守れています	
徳山高等学校	2	大谷 太志	か	
熊毛北高等学校	2	山本麻友美	mind 1 - despair	
美祢工業高等学校	1	藤井 政行	-	

※第24回全国高総文祭（静岡大会）候補作品は上記の美術工芸5、書道4、写真5。

美術・工芸部門

会場：ときわ湖水ホール

理事長 平田博英
(岩国工業高等学校教諭)

宇部市常盤公園の常盤湖を一望できる会場に、出品校25校による107点の作品が展示されました。ホール湖水側の壁面は全面ガラス張りで、自然光をふんだんに取り込んだ会場は明るく、人工光の展覧会場に慣れている者にとっては新鮮でした。

昨年度より若干出品点数は少ないようでしたが、展示されている作品群は鑑賞者を圧倒してきます。絵画及びデザインの平面作品で会場は占められていましたが、今年度は、彫刻、工芸（陶芸）の立体作品に、それぞれ1点ずつではありましたが、出展作がみられました。立体作品への取り組みは、部門会議でも毎回議題にあがってくる内容のひとつですが、今後どのように強化していくかは、難しい課題には違いありません。全国総文祭の部門展示をご覧になられた方ならお分かりでしょうが、完成度の高い立体の作品群に接すると、県外との差を多少なりとも感じてしまいます。

この高総文祭展示部門は、各校とも校内選考による5点内での出展、さらにその上での、全国総文祭への出展5点（絵画3点・デザイン及び立体2点）の選考を主体にしたコンクールの形式になっています。

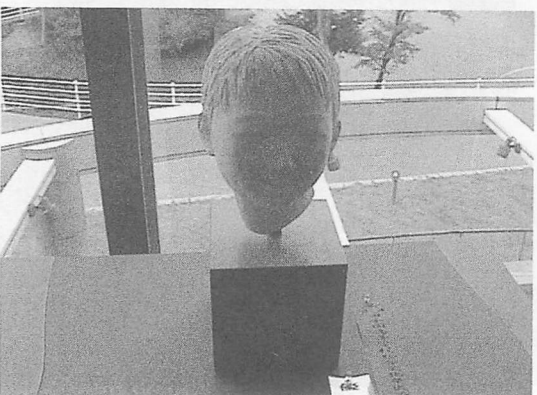
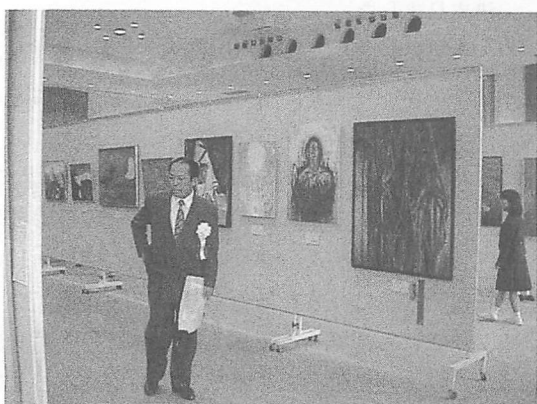
6人の審査員による厳選なる審査により、来年度の静岡大会への出展作品及び優秀作品8点が決まりました。

今回の審査にあたっての審査員共通の感想は、デザインの作品が、全体的に取り組みの面で力不足であったということです。

他のところでも触れましたが、学校によっては、専門の先生を顧問に付けることのできないクラブも数多くあります。確かに、作品面での技術的な差は見られるかも知れませんが、コンクールに入選することが本来の部活動の意味ではありませんし、この高総文祭の意義でもないと考えます。我々も、その点をもう一度見つめ直し、コンクール形式と同様に、作品展示の目的を、幅広く理解してもらう努力も必要だと感じました。

最後に、最終日の講評会に、2時間もの長丁場を休憩もとらず、熱心に作品評に耳を傾けてくれた美術部の生徒諸君に感謝します。

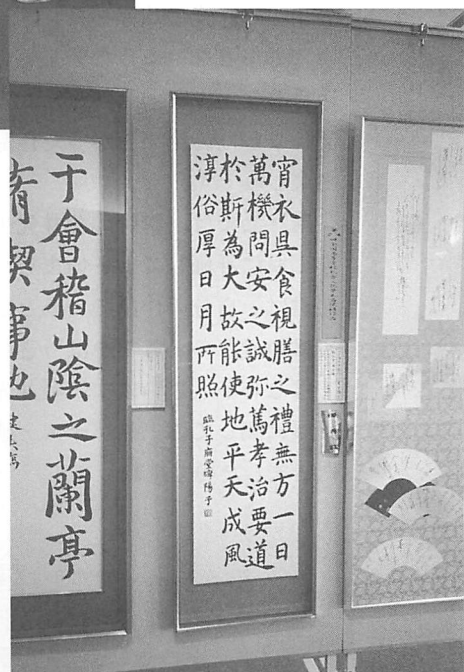
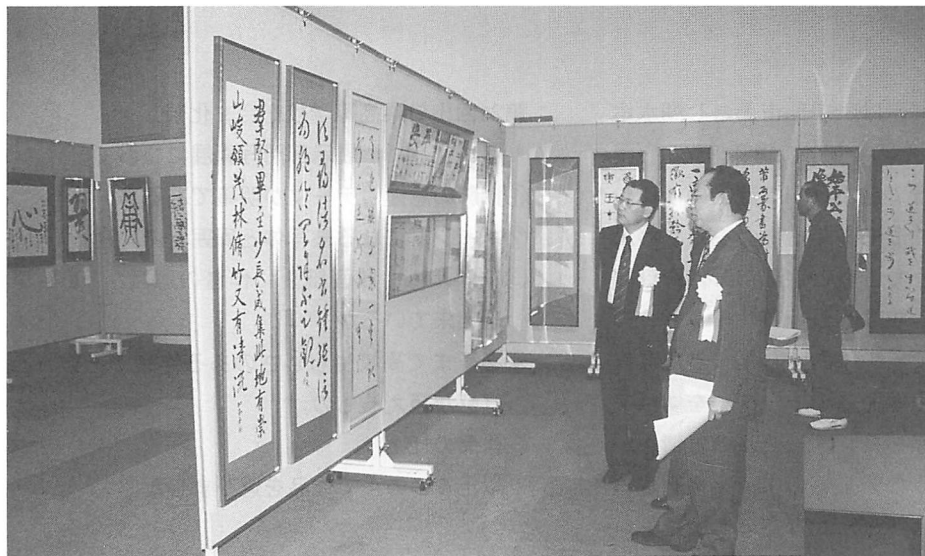




山口県高等学校総合文化祭
展示部門

書道部門

会場：ときわ湖水ホール



写真部門

会場：ときわ湖水ホール

理事長 **大濱進治**
(宇部工業高等学校教諭)

今年度の写真部展示は、宇部市ときわ湖水ホールで開催されました。今年は、講師の先生（藤井 真先生）の指導で最終日の講評会の前にレフ板を使った本格的なモデル撮影会をときわ公園内で行いました。ちょうど宇部市野外彫刻展と開催日が重なり、すばらしいロケーションの中で行なうことができ、県内から集まった写真部の生徒諸君も一生懸命にシャッターを切っていました。光の状態も良く、モデルの表情を一瞬でも逃さないような緊張感の中で突き刺さるようなシャッター音が澄んだ青空のもとに響いていました。出来上がった作品を見るのがとても楽しみです。

講評会では、講師の藤井先生が作品一つ一つを丁寧に評価して下さいました。出席した生徒諸君は、自分の作品の良いところ、改善しなくてはいけないところをはっきりと理解できたのではないかと思います。藤井先生から今回の写真展に関してのアドバイス・感想を書いていたので掲載します。

第21回山口県高等学校総合文化祭

展示部門写真展について

- ①撮影の意図、テーマが明確である事
 - ②ポイントになる被写体と周囲との関連
 - ③フィルム、印画紙上に作者の意図が100%再現出来ているか
 - ④あくまで高校生らしさのある作品で、努力と好感が窺えるもの
 - ⑤作品の仕上げ
- 以上5つの点で作品を選びました。

①②では、突発的な報道性のあるものを除いては、自分では何を撮影するか、また、撮影する時間帯（光線状態）、人物写真なら喜怒哀楽など、作品を見る人に深い感銘を与える様なヒューマンな作品、時と場合に依っては多少の演出（過剰にならなければ）も良いと思います。

③では、フィルムの現像の具合、多階調印画紙を除いては印画紙の号数の選択、印画紙面でのピント（周囲まで）白から黒に至るまでのグラデーション

④では、素晴らしい作品が多く、楽しく見させていただきました。特にモノクロ作品が多く、フィルターの使い方一つで特異な効果が出たと思いますので、フィルター使用で研究してみてもいいと思います。⑤では、作品の仕上げの立派なものもありましたが、中

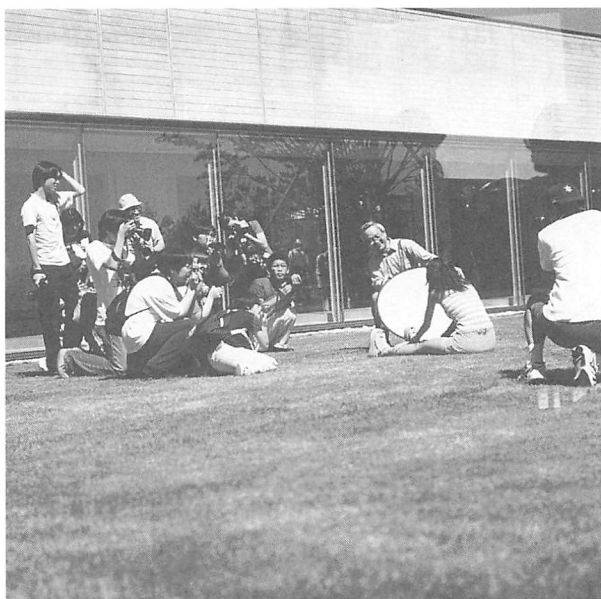


途半端なのが多少ありました。WP（レジコート）印画紙のパネル張りは気を付けて下さい。プリント面のキズ等は是非スポッティングで完璧に仕上げて下さい。

高校生らしい新しい感覚、俗に「いまふう」写真も数点ありましたが何を表現しているか、何を訴えているかが理解しにくい作品もありました。（無理やりタイトルをつけた様な）。

中央で通過するのは？と感じた作品が1～2点はある様に思いますが、どうでしょうか。この作品は見る人に強い印象を与えるものです。選にはずれた作品で、＜大穴＞が狙えそうなものもありましたので、付け加えておきます。

以上 （評： 藤井 真）



囲碁部門

会場：下関工業高等学校

理事長 安藤 公 隆
(下関工業高等学校教諭)

平成11年度の第21回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門の第11回大会兼全国高等学校文化連盟囲碁部門第13回大会の県予選は、平成11年10月24日(日)高文連会長西田昇校長先生、指導課主事山田尚子先生、高文連事務局長中邑立夫先生を迎えて、下関工業高等学校で開催されました。参加校は13校で男子61、名女子14名計75名で、終日熱い戦いが続きました。団体戦は3人で1チーム、トーナメントで防府高等学校が優勝しました。個人戦は四面打ちの変則リーグ戦(ハンディ戦)で団体戦と同時進行で行なわれました。結果は次の通りです。

＜団体戦＞男子 優勝 防府高等学校
準優勝 徳山工業高等学校
第3位 下関西高等学校
第3位 山口高等学校
女子 優勝 宇部高等学校
準優勝 徳山工業高等学校

＜個人代表決定戦＞

男子 優勝 小野慎吾 新南陽高等学校
女子 優勝 吉永弥咲 徳山工業高等学校

＜団体代表決定戦＞

男子 優勝 足立史招 水産高等学校
優勝 岡田一貴 宇部高等学校
女子 優勝 岡村美奈子 宇部高等学校

なお、全国高校総文祭の代表決定戦は、第4戦目に行ない、3回戦までの成績と棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定し、対局時計を使用し、互先で代表権をかけて行いました。それぞれ優勝の5名の者は、平成12年8月7日(月)～8日(火)に静岡県静岡市で開催される全国大会に出場する予定です。今年は、個人戦男子に出場する小野慎吾君(新南陽高校)は一般においてもトップクラス棋力を有しており、全国大会の優勝を期待できる生徒です。

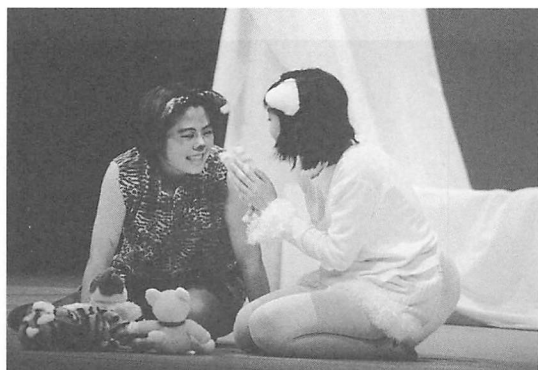
囲碁は、集中力思考力、決断力が瞬時に問われます。囲碁で培った力と、深い人間的な絆を支えに21世紀を切り開いて下さい。



演劇部門

会場：シンフォニア岩国

理事長 三 藤 真 人
(厚狭高等学校教諭)

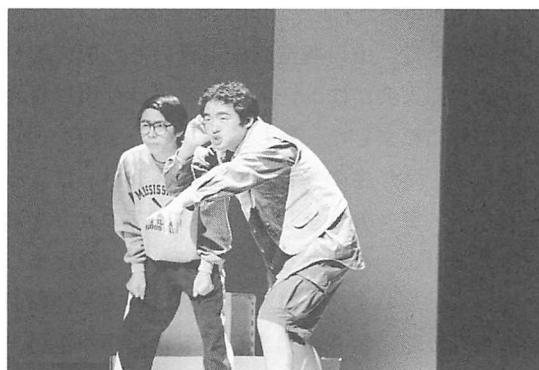


今年度の県大会は、周防地区の引き受け。シンフォニア岩国が会場とあって早くから関心と期待が高かった。また、全国大会（山形）で夏の発表を終えて帰って来る岩陽高校が主管校。大変忙しい一年であったのではとも思う。

昨年一度書いたことだが、確かに鳥取の全国大会から、下関での中国地区演劇発表会が、県の演劇部員に残したものは大きかった。演じること、創ること、観客の心を打つもの、面白いもの、深いもの、気高いもの、純粋なもの、美しいもの等々を、自分達の創作、演技の中で捜そうという意気込みが感じられる。舞台の上で自らの求める方向性を思い思いに表現してくれているように見た。

今年の8校の集まった岩国での県大会の舞台がまさにそれをよく感じさせてくれた。地区大会と少し違う親近感のやや薄い他地区の同僚にどれだけ自分達の意志や感情が通じあえたか。でも、演者たちは少しも臆することなく伸びやかに演じてくれ、そんな中に、地区地区の特色と個性があふれていた。その意味で、今年の県大会は“色々な力と表現の豊かなバランス”がみられたと思う。

講師は昨年と同じく、町井陽子先生と山口武



信先生。各校の上演の幕あいごとに講評をいただき、演劇という舞台表現の全般について懇切なご指導をいただいた。

1. 「せりふ」

「ことば」と「ことば」「気持」と「気持」「心」と「心」「眼」と「眼」の生きたコ
ンタクト

2. 台本・創作

読むだけで面白いのではなく、
舞台が面白くならなくては。

作者の思いを演出・演技で観客に伝える。
脚本・ト書き通りでなく、その脚本を取り
あげた自分たちの演出で、思うように。

3. 空間・登場退場の位置・舞台装置・光・音 効すべて計算と工夫を。

今年も町井先生の熱のこもった全体のご指導をいただいた。

中国大会へ選抜されたのが、シャボン玉を飛ばし、純朴な少女と面白く真剣なセールスマン達をアレンジした防府商業、ホテルの一室での奇妙な人と人の出会いと事のなりゆきを演じた岩陽高校。また新しい展開をはぐくみながら今年の県大会は閉じられた。

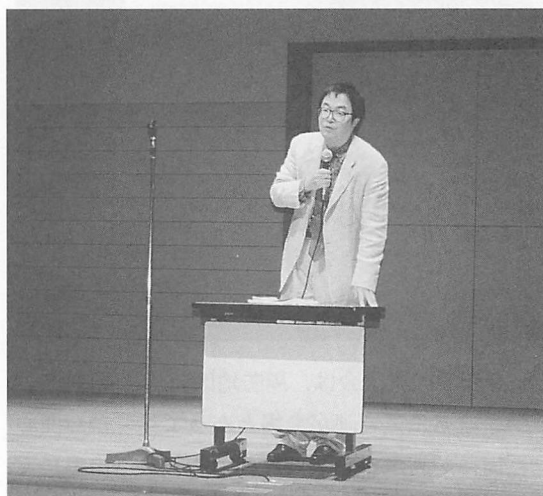
放送部門

会場：ニューメディアプラザ山口

理事長 **青木 幸子**
(山口農業高等学校教諭)

11月7日、山口農業高校主管のもとで、第6回放送部大会がニューメディアプラザ山口を会場に行われました。新しく参加した2校を含めて、1、2年生のフレッシュなメンバーによる大会がスタートしました。はじめての大会参加で緊張のピークに達している顔が多々みえましたが、話しおえた後は、みな満足感で一杯の面持ちでした。審査を担当して下さる勝津正男アナウンサー、竹村昌浩制作部長へ放送部会としてのお願いとして、講評をできれば一人一人又1作品ごとのという、全くもって無理難題を出したわけなのですが、お二人とも快く引き受け講評をして下さいたことに、参加者全員深く感謝している次第です。

アナウンスの内容も話題性があるもの、楽しいもの、身近な所から発見したもの等、例年以上に質の高いものであったと、ほめていただいたものの個人にスポットをあてれば、鼻濁、無声化、ヘッドヴォイス、うたいあげ等、訓練すべき点は多々あるようです。作品の制作意図が



不明瞭であると、訴えるものが少ない等、映像制作の原点に関わるお話もうかがうこともできました。

コンテストの張りつめた緊張感と違い、県の放送部大会では、みなが友人のアナウンス朗読そして作品を「一生懸命きく」という姿勢がみられ、発表後も、その作品をきっかけに交流が深まっていくという「あったかい」空気が漂っています。卒業生が応援にかけつけてくれたりと、多くの人達の力で大会が続いていくことのありがたさを感じる一日でした。

来年度、静岡大会に推薦されたものは次のとおりです。

アナウンス部門／稲光裕子（山口高校）広木

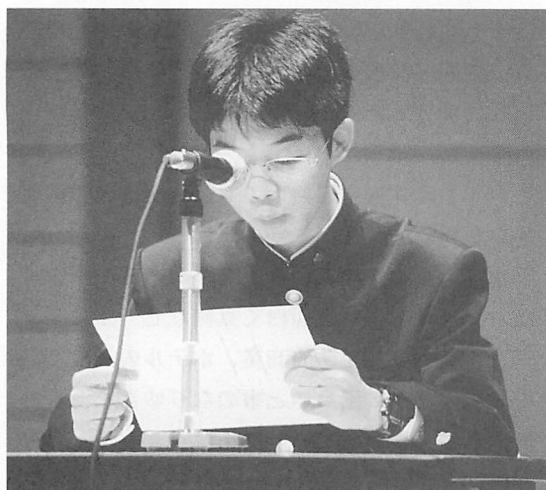
弓子（岩国高校）吉永沙織（熊毛南高校）

朗読部門／福山桂（熊毛南高校）安部杏美（山口高校）村井絢（高水高校）

ビデオメッセージ部門／

華陵高校「救えカブトガニ！」

A・P部門／山口農業高校「野菜の主張」



将棋部門

会場：中国新聞山口支社

理事長 弘中敏之
(防府商業高等学校教諭)

第21回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会は、全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第35回全国高等学校将棋選手権大会の県予選を兼ねて、5月30日（日）中国新聞山口支社において開催されました。大会の企画運営に関して関係諸団体との緊密かつ安定した連携の下以前にも増して盛り上がりをもせた大会となり高文連会長西田昇校長先生、指導課主事山田尚子先生、高文連事務局長中邑立夫先生をお迎えしました。参加校こそ11校と前年を下回りましたが、男子56名、女子1名と前年を大きく上回る参加がありました。競技方法は総平手。個人戦は4名1組の予選リーグで2勝を挙げた2名はA級トーナメント、残り2名はB級トーナメントを戦いました。団体戦は10チームが2組に分かれて予選リーグを行い、上位2チームが決勝トーナメントを戦いました。運営上、予選では25分切れ負け制で行われ選手には厳しい持ち時間となりましたが、唯一人女子で個人戦参加した宇部高校の佐竹典子さんをはじめくA級ベスト4入賞>するなど、持てる力を存分に発揮した感のある対局が続きました。結果は次の通りです。

<団体戦>・優勝 宇部高等学校B

(山縣弘嗣、見坂卓郎、馬場祐樹)

・準優勝 防府商業高等学校

(福田忠輔、藤井泰三、田戸真行)

・第3位 宇部高等学校A

(浦野亘弘、薮本勝治、浦野浩一)

<個人戦A級>

・優勝 近江徹哉 (防府高等学校)

・準優勝 高城誠司 (光高等学校)

・第3位 吉岡拓馬 (徳山高等学校)

<個人戦B級>

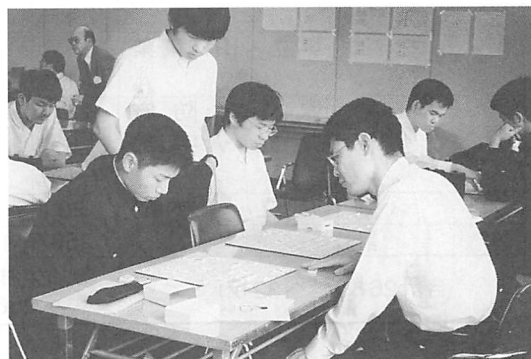
・優勝 平田 淳 (宇部高等学校)

・準優勝 大庭将吾 (防府高等学校)

・第3位 山根寛大 (下松高等学校)

なお、団体戦と個人戦A級の優勝者、および女子で男子に混じり好成績を挙げた佐竹典子さんは、山形県天童市で開催された全国大会への出場権を得ました。

近年来、高校生の将棋を取り巻く環境はますます厳しくなっていますが、にもかかわらず、参加生徒のレベル向上と、それを支える多方面にわたる皆さんの深い理解と協力によって本県の活動は大きく盛り上がっています。この機運を土台に一層の発展を期待しています。



第23回 全国高等学校総合文化祭の記録

【大会テーマ】

「虹の帆をはれ 文化のそらへ」

全総文（山形大会）参加校一覧

部 門	高 等 学 校 名	参加生徒	出品点数	備 考（演奏曲目・作品等）
パ レ ード	宇 部 女 子	(32)		マーチングバンドに出演
	宇 部 女 子	(13)		バトントワリングに出演
	三 田 尻 女 子	(14)		（2校合同出演）
合 唱	萩 光 塩	16		演目「Salve Regina, Ave verum corpus」
吹 奏 楽	県立・岩国商業	50		演目「サンダーバード、紅炎の鳥」
器楽管弦楽	県立・柳井	70		演目 組曲「仮面舞踏会」より
日 本 音 楽	県立・萩	10		「虫しぐれ」菊城正明
マーチングバンド	宇 部 女 子	32		演目「Movies' Sounds」
バトントワリング	宇 部 女 子	13		演目「All the dogs in heaven」
	三 田 尻 女 子	14		（2校合同出演）
美 術 ・ 工 芸	県立・新南陽	1	1	B2「輝く生命」 櫻井 彩(3)
	県立・西京	1	1	「All forgood smile」 森重 匠(3)
	県立・山口	1	1	油彩F30号「瓶のある静物」 磯村香織(3)
	県立・宇部中央	1	1	油彩F50号「おそら」 佐藤恵子(3)
	県立・下関商業	1	1	油彩F50号「ジョウビタキ」 栗林一未(3)
書 道	県立・防府	1	1	全紙（縦）臨『蘇孝慈墓誌銘』山本真弓(3)
	県立・下関西	1	1	「本阿弥切」 藤田早紀子(3)
	県立・宇部西	1	1	2×8判 臨「雁塔聖教序」 植田陽子(2)
	高 水	1	1	全紙 臨「牛橛造像記」 西村幸雄(2)
	県立・高森	1	1	全紙 「二人の釣人」 筑波慈実(3)
写 真	県立・熊毛北	1	1	全紙 「お散歩」 寺本久美(3)
	県立・徳山	1	1	全紙 「女子高生」 木村真理子(3)
	県立・小野田	1	2	全紙 「フクちゃん」 太鼓友恵(3)
				全紙 「父ちゃんの休み」 松尾 晃(3)
	県立・宇部	1		団体戦(男子1名) 岡田一貴(2)
囲 碁	県立・田部	1		団体戦(男子1名) 工藤悠治郎(2)
	宇 部 女 子	1		個人戦(女子1名) 今井幸恵(3)
	県立・小野田	1		団体戦(女子1名) 國吉沙織(3)
	県立・水産	1		個人戦(男子1名) 足達史招(2)
	県立・岩国	1		朗読1名 渡 菜保子(2)
放 送	県立・下松	2		アナウンス 吉田紘子(3) 朗読 西田舞子(2)
	県立・山口	2	1	朗読 古谷英恵(3) アナウンス 有田敬子(3)
				ビデオピクチャー「のんた」は生きている
	県立・山口農業	1		アナウンス 重本和宏(3)
		1	1	山口弁講座～初級編
将 棋	県立・防府	1		男子個人 近江徹哉(1)
	県立・宇部	3		男子団体 浦野亘弘(2)見坂卓郎(1)馬場祐樹(1)
				女子個人 佐竹典子(3)
演 劇	県立・岩陽	20		演目 「停学の名人」
小 計		256	16点	
合計26校(延べ32校)		参加生徒数 256名		総合開会式における生徒代表 1 名 県立宇部西高校 2 年 植田陽子(書道部門)



▲ 式 典



▲ 交 歓 会



器楽・管弦楽部門

会場：山形県県民会館

柳井高等学校

2年 岩本有加、細田 勝

音楽部、吹奏楽部の合同という形で出演した第23回「全国高等学校総合文化祭」は私達に大きな感動を与えてくれました。総勢85名という大人数で、真夏の太陽の照りつける中、移動するのは大変な苦勞でしたが、そんな苦勞など吹き飛ばくらいに他校の演奏は素晴らしいものでした。私達は「同じ高校生でもここまでできるものなのか」という驚きと、その音楽性の高さに深い感動を覚えました。そして音楽とは音を楽しむものなのだという事をあらためて確認しました。

「全国」のステージに立つという今までにない経験に不安もありました。けれどもそれ以上に、まだ見たことのない「全国」の大きさへの興味や、“がんばろう”という気持が強かったように思います。練習ではつらいこともありましたが、皆で半年間がんばることが出来て本当に嬉しく思いました。力を合わせて一つのことを成し遂げたという事は、私達の中に大きな達成感として残っています。

全5楽章から成り立っているハチャトリアン作曲の組曲「仮面舞踏会」のうち、私達が演奏したのはワルツ、マズルカ、ギャロップの3楽章です。ワルツとマズルカの3拍子の違いを感じるのがとても難しく、柳先生に教えていただいたりして、四苦八苦しながらコツコツがんばりました。曲の形が出来てきた頃から、各個人が「仮面舞踏会」の妖しさを華やかさを表現するために、それぞれ工夫して曲の理解に取り組

んだり練習の様子や皆の気持がさらに真剣に、緊張感を含んだものとなりました。

音楽部（弦楽）の3年生にとっては、このステージが最後のステージということで、そのことを誇りに思うと同時に、不安と緊張もより大きかったことと思います。

それらの思いを抱え、日頃の練習の成果を十分に発揮し、観る人の心を強く惹きつけることを目標として、私達はステージに立ちました。私達なりに、悔いのない、全員の力が出しきれた演奏になったと思います。演奏後の記念写真のなかには、“やった”という笑顔が一杯に並びました。一人一人の中に、高校生活の1ページとして、とても大きな思い出ができたことと思います。また、まだまだ未熟で足りない所も多い私達ですが、この大会に出場できたことで少し成長できたようにも思います。

最後となりましたが、私達がこの大会に出場するにあたり、補助員として御協力をいただいた多くの生徒の皆さんや、各方面の皆様方に心からのお礼を申し上げます。



合唱部門

会場：天童市市民文化会館

萩光塩学院高等学校

3年 市原千恵子

『虹の帆をはれ 文化のそらへ』をテーマに山形県で開催された全国高等学校総合文化祭に県の代表として参加しました。出場の知らせを聞いた時、部員だけでなく先生方も大変喜んでくださいました。しかし、全国大会だけに、私達が思っているほど易しいものではありませんでした。毎日必死に練習を重ねました。学校の代表はもちろん、県の代表として行くことを思うと、軽い気持で行くのは御支援くださった方々に対して申し訳ないという気持で一杯だったからです。部員の気持は、まさに一つにまとまっていました。

本番当日は、朝から会場にいました。他校の演奏を聞き、その予想以上のレベルの高さは、とても刺激になりました。本番では悔いの残らない演奏をするだけだと思い、精一杯歌いました。歌い終り、大きな拍手をいただき、それまでの緊張がとけ、ようやく安心すると同時に、今まで以上の充実感を味わうことができました。

私はこの文化祭を通して改めて合唱のすばらしさを感じることができました。山形のスタッフの方、そして今まで御支援、御協力をいただいた方々のおかげで貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。



▲萩光塩学院高等学校

吹奏楽部門

会場：天童市市民文化会館

山口県立岩国商業高等学校

吹奏楽部部长 杉本明美

平成11年7月31日から、山形県で第23回全国高等学校総合文化祭が開催されました。私たち岩国商業高校は8月1日、天童市市民文化会館での吹奏楽部門に参加しました。

出発前、部員は「全国へ行く」という緊張の中で、吹奏楽コンクールへ向けての練習に励んでいました。私たちは昨年度、15年ぶりの「金賞」を受賞、そして今年は「中国大会へ出場」という大きな目標を胸に、山形での演奏も成功させようと岩国を出発しました。60名での大移動、初めて飛行機に乗った人も多く、部員たちの興奮はピークでした。しかし山形での練習の時は、移動の疲れもみせずいつもの演奏で、部員の気持は一つになっていました。本番直前、私たちはステージ袖にいました。そこで私たちは秋田県立新屋高等学校の演奏を聴いたのです。最初の音が出た瞬間、部員たちは驚きのあまりじっと立って待っていることができず、演奏が見え

る花道まで行き演奏に聴きいていました。所定の待機場所を離れ花道まで行ったことで係の先生方に叱られるかと思いましたが、係の先生方もみんな花道の方まで来て、演奏にくぎづけでした。ブラボーコールが鳴り止まない中、私たちは全員、自分たちなりに精一杯の演奏をしようと、堂々とステージに上がりました。吹奏楽コンクール全国大会常連の新屋高校の後というプレッシャーはありましたが、みんなの心は一つになり、「サンダーバード」と「紅炎の鳥」を演奏しました。そして演奏が終わった瞬間、客席から「おー！！」という声が聞こえてきたのを今でも覚えています。『虹の帆をはれ 文化のそらへ』のスローガンの下、私たちは最高の演奏をすることができました。

今年私たちがこの文化祭に出場することができたのは、先輩や部員の保護者の方々など多くの人の支えや協力があったことです。本当に感謝したいと思います。



▲岩国商業高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：山形県天童市・県総合運動公園（総合体育館）



▲宇部女子高等学校パレード風景

第23回全国高校総合文化祭は7月30日（金）～8月1日（日）の3日間山形県で開催されました。7月30日には17：30～19：00まで山形市の村山保健所東側路上～文翔館前まで約1 kmのパレードを行ないました。宇部女子高等学校のプラスバンド部の演奏で、山口県合同チームのバトントワリング（三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校の2校）が演技を行いました。沿道には、高文連会長西田昇先生をはじめ県教委の先生方の応援を受け、すばらしい演奏・演技を披露することができました。

8月1日には会場を天童市の山形県総合運動公園総合体育館に移し、部門の発表会が行われました。宇部女子高等学校のマーチングバンドが『Movies Sounds』の曲で、またバトントワリングの山口県合同チームの宇部女子高等学校・

三田尻女子高等学校の2校が『All the dogs in heaven』の曲によって、華麗な演技で会場を沸かせました。

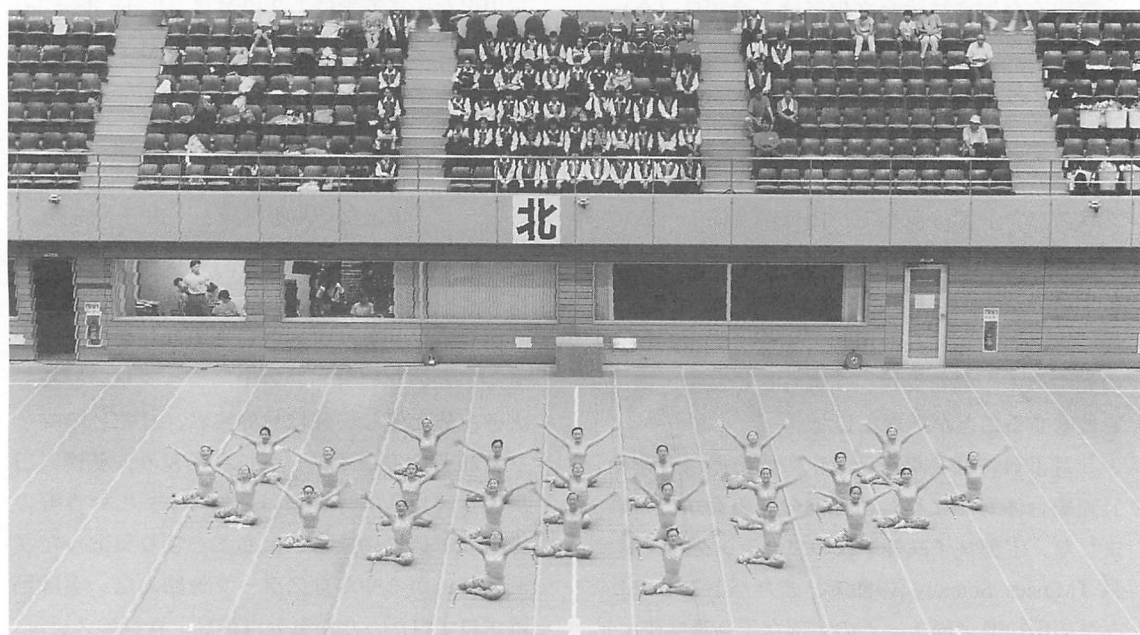
「全国高校総合文化祭に参加して」

三田尻女子高等学校 山下 尚美
バスに揺られること22時間、山形の雄大な自然と県花の紅花に迎えられ、私達は夕刻、パレード出発点に到着。夕方というのは汗の流れが止まることのない暑い暑い中、ジョンソン校長の大きな体と優しい瞳に見守られ、紅花色のフープと紅花色のレオタードに身を包み、私達三田尻乙女達12名は『かわいいね…！』という町の方々の声援に励まされ、ちょっぴり気取ったブーツで、かろやかなステップを踏んだ。実は足はボロボロだったが気分は最高。青春のステッ

プが山形の皆さんと共に味わえた感動は今でも胸に焼き付いており、胸の鼓動が高まる昨今である。そして次の日はリハーサル。さらに本番のフロアー演技の日を迎えた。やはりこの日も暑い暑い一日の始まりだった。待っている時の時間はとても心臓に悪いもので、緊張の連続。私達3年生にとっては最後のステージ。しかしフロアーに入ると、あんなに緊張していたのが嘘のように逆に楽しくてしょうがなくなり、三

田尻スマイルで、思いっきり演技することができ、さらにノードロップで最高の出来であった。あつという間のフロアー演技であったが、今まで流した汗や、合同合宿の厳しさ、そして3回の講習会でマスターしなければならない難しさ等たくさんの事を体得した。が、山形の雄大な自然や美しい紅花は、私達をさらに一回り大きくしてくれた大地であった。

♪ 山寺の……ボンボンボン……



日本音楽部門

会場：山形県県民会館

「心を一つにして」

萩高等学校 3年 山根真由美

私達萩高校箏曲ぶは、8月に山形県で行われた全国高等学校総合文化祭に参加しました。

演奏曲は「虫しぐれ」で、秋の夜、叢から聞こえてくる虫の音を一箏、二箏、三箏の三重奏で表現した曲です。叢で鳴いている様々な種類の虫の声を表現するのが難しく、中でもかすかな虫の音を出すのに苦労し、何度も何度も練習しました。大きなステージで演奏するのは初めてで、とても緊張しましたが、日頃の講師の先生方や顧問の先生方との練習の成果が十分に発揮できるように頑張りました。ステージでは部員全員の心が一つになったような気がしました。

箏曲部に入るまでは、箏という楽器を実際に見たことも触れたこともなかったのにこんなに大きなステージで演奏できたことを嬉しく思います。他校の演奏も、勢いがありすばらしい音色でした。私にとって、後輩達と協力しあって演奏出来たこと、全国高等学校総合文化祭というとても大きな舞台で演奏できたことはすばらしい経験であり、大切な思い出となりました。

「全国総文祭に参加して」

萩高等学校 2年 末永 幸

全国総文祭に出場することが決まったのは、大会の約1年前でした。その時はまだ曲を練習し始めてから日が浅かったので、全国大会で弾けるのだろうか、信じられないような気持ちでした。しかし、週1回という少ない部活動の中で集中して練習をしました。

6月の県総文祭は、私たち2年生にとっては箏を始めてから最初の発表の場だったため、緊張して手が震え、それまでの練習の成果が十分に出来ませんでした。これではダメだと思い、それからは部活の後に友達と練習を行い、出発前の最後の練習では、満足できる演奏となりました。

前日のリハーサル、当日の本番も、今までの練習の成果を十分に出すことができました。今度は県総文の時のような緊張はなく、箏を弾く事を楽しむ余裕も持てました。演奏後の皆の顔は、達成感と満足感に溢れ、喜びで一杯でした。また他校のすばらしい演奏には鳥肌が立つほどで、全国のレベルの高さも痛感しました。

この全国総文に参加できた事で、部活内の親睦も深まり、また少しですが箏を弾く楽しさも知ることができ、とても良い経験になりました。これからも人を感動させるような演奏を目標に、頑張って練習をしたいと思います。



美術・工芸部門

会場：山形美術館

理事長 平田博英
(岩国工業高等学校教諭)

東北といえど、山形の街は暑かった。

山形美術館を会場として、美術・工芸部門展が開催されました。山形大会は「生徒の手作りの文化祭」を売りに、運営の大半を生徒の手に任せて実施されていました。至る所で、べにばなの色をイメージしたであろう、お揃いの黄色のTシャツ姿の、運営に携わる高校生を見かけることができました。

美術館の正面玄関前を開会セレモニー会場とし、入場できるのを今か今かと待ち構えている全国からの関係者の中に、8月の太陽の下、山口県からの出展作品を制作した、美術部の生徒と顧問の先生方の、汗だくになった顔も見られました。

会場は1階にデザイン、立体作品（彫刻を含む）、そして工芸作品が展示され、2階には絵画、3階には山形県内の高校生による絵画が展示されていました。セレモニーの後、人波に押されながらの入場だったためか、1階会場は多くの鑑賞者に占められ、展覧会場というよりはイベント会場といった趣でした。

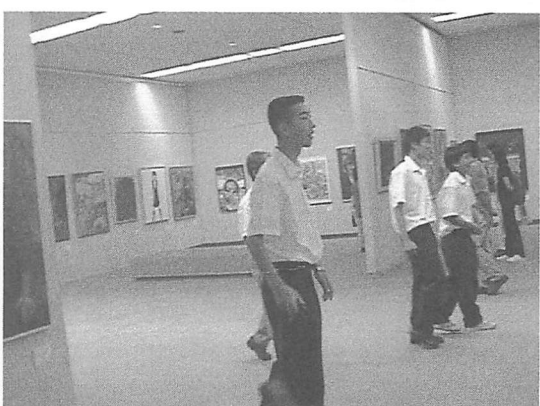
会場内では、自分自身の作品を探し、その前で写真を撮る姿や、その場所に展示されていることを、感慨深げに眺める姿など、色々な高校生の姿が見られましたが、さすがに全国の出展作品のレベルは高く、これだけの作品が一堂に会して展示会が開けたことに対する、素直な感動がありました。この会場に足を踏み入れることのできた美術部の生徒は、本当に幸せだと思います。この場所に自分の作品を展示して観

ることは、とても貴重で勉強になる体験だと思いますし、そういった機会を設けることの意義の大きさを、改めて認識しました。

絵画は、それぞれの都道府県別に、北から順に展示されていましたが、順を追って鑑賞していると、各都道府県の傾向がどこことなく見て取られ、面白いものを感じました。山口県作品には、しっかりとした力強さを感じましたし、全国のレベルに退けをとらない内容だったと思います。

開期2日目に批評会が行なわれましたが、同時間帯に専門部会もあり、批評会の方には参加できませんでした。後で話を聞いたところによりますと、講師が作品一つ一つを観て講評しながら回ることはなく、参加高校生が自分の宛先を書いたはがきを交換して、裏面に作品の感想等書いてもらい、後で投函するという方法で、今回それを批評会として実施したということでした。確実に投函してくれればよいのですが、山口県の高校生の中には、はがきを送ってもらっていない者もありました。参加高校生は、自分の作品をどのように観てくれているのかはとても気になりますし、それを専門家に講評してもらうことはとても大きな意味をもっていると思います。企画はユニークでしたが、参加した高校生はかなりがっかりしたようでした。

今回、山口県から5名の生徒諸君が参加してくれましたが、たくさん思いを抱いて、新しい作品に取り組んでくれていることを期待しています。



全国高等学校総合文化祭
美術・工芸部門

山口高等学校

3年 磯村香織

自分の作品が全国高等学校総合文化祭に出品されると知ったとき、あまりにスケールの大きいことのように思えて、ピンとこなかった。開催地が遠方の山形県だということもあって、私は、全国総文祭を遠いことのように感じていた。

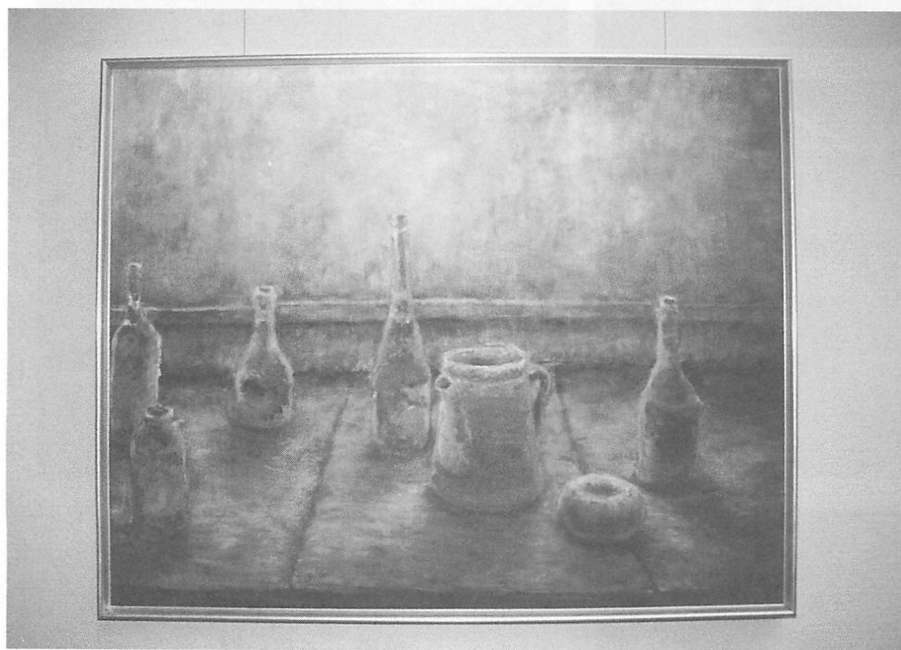
いざ山形に着いてからは、元々の人見知りする性格が災いして、友達が出来ず、落ち着かなかった。そんな訳で、私はますます全国総文祭に溶け込めないような気がしていたのである。

山形美術館は、なんとなく近代的な感じのシャープな建物だった。その中で美術・工芸部門の作品が展示されていたのだが、見て回るうちに、私のもやもやした気持は次第に消えていった。一言で言えば「すごく上手だった」となるのだが、とにかく私は作品群から様々な衝撃を受けて、もやもやしている場合ではなくなっていた。私は主に油絵を見たのだが、自分の好き

な作品、到底及ばないような技術で描かれた作品、不思議な魅力のある作品、もちろん私の理解を超えた作品もあった。しかし、どれも自分と同じ高校生が創り出した作品なんだなと思うと、なんだか親近感が湧いた。自分の作品と一緒に展示されているということも、妙に嬉しかった。

交流会では、一人につき一通ほど、他県の生徒に、その人の作品の感想等を書いた手紙を出すことになった。私にも九月の始め頃に、その手紙が届き、紙一面にびっしり書いてある感想を読むのは恥ずかしいがそれと共に感動的でもあった。誰かに自分の作品を見てもらい、そして感想をもらうというのはいいなと思った。

いろいろなことのあった全国総文祭だが、私なりに見て、感じ取ることができた。たくさんの作品や、山形の青い空や、新幹線での長い旅の途中で見た風景は、確実に私に何かを残してくれたと思う。少し前に進めたような夏だった。



書道部門

会場：山形県体育館

宇部西高等学校

2年 植田 陽子

私は、県の代表で総合開会式に出席することになっていました。式では、山口から持ってきた夏みかんと、山形県の花・べに花とを交換しました。第二部は演劇仕立てでとてもおもしろかったです。その中のイメージソング「虹の明日へ」はとても気に入り、口ずさむほどでした。

その日の夕方はパレードがあり、生の音に圧倒されました。

7月31日に講評会が山形市総合福祉センターであり、続いて交流会に入りました。皆で小色紙に山形の名詞・句を書き、それを使いカルタ取りをしました。そのカルタ取りで、みんなとうちとけたような気がします。そして、花笠踊りをして終わりました。

その後、山形県体育館に行き、初めて額に入れて展示されている自分の作品を見ました。全国から集まった作品は、とても高校生が書いたとは思えないものがあり驚きでいっぱいでした。木簡に書いてあるもの、絵の具や金・銀で書いてあるものなどがあり、まさしく個性、感情豊

かだと思いました。

今回、この全総文祭で得た物が沢山あり、とても貴重な経験になりました。

防府高等学校

3年 山本 真弓

高校生最後の夏、私は多くの意味で、本当に有意義な二日間を過ごしました。全国高校総合文化祭への参加という滅多にないチャンスを得たことで、自分自身、大きく成長したと感じています。書道に対する姿勢も見方も変化し、自分自身の作品への理想というようなものが高くなった気がしました。

とは言うものの、実際山形の会場で、他の高校生の作品を見た時の驚きは私の想像を超えていました。その高度な実力と技術。全国の凄さを見せられた、という感じでした。しかし同時に、自分の中で「もっと良い作品を書きたい」という向上心も生まれ、他の作品を見ることも大変勉強になりました。

また、県内を含め、他の高校生と交流するのも楽しく、慣れた友人とは違う新鮮さがありました。

この素晴らしい経験をこれからも色々な場で活かしていければ、と思います。

高水高等学校

2年 西村 幸雄

書道部門の展示会場には数えきれないほどの高校生の作品が並べられており驚きの連続だった。自分の作品を見るまでは本当にあるのか不安だったが、見つけた時は嬉しかった。今まで



▲全国高総文祭書道部門交流会

以上に書き込んで完成し、自信があったはずの作品も周りの作品に圧倒されていた。会場で何度か自分の作品を見直したが、もっと書き込むべきだったと反省もした。

その後山口県の先生方からいろいろ批評していただいた。「昨年見た時より随分進歩している。」と言っていてほっとした。広い展示会場で自分の作品も負けてないような気がしてきた。この全国高等学校総合文化祭山形大会

では多くの貴重な体験ができ勉強になった。

これからの書道学習においてこの体験を生かし、努力を重ねていきたいと思う。



第23回全国総文祭の記録

写真部門

会場：酒田市美術館

熊毛北高等学校

3年 寺本 久美

平成11年7月30日から3日間、山形県酒田市で開催された第23回全国高等学校総合文化祭写真部門に参加させていただくことになり、顧問の先生と一緒に山形県に行ってきました。山形に行くのは初めてだったので、先生の後ろをついて行く状態でした。酒田市に着いて、まず、荷物を置き、写真の会場である酒田市美術館に

向かいました。受付に行くと、酒田市の高校生が会場の手伝いをしていて、とても親切に、笑顔で迎えられ、心が和みました。早速、名簿で自分の名前を探し当てた時、作品の題名の横に何か書かれてあるを見つけました。受付の高校生から「おめでとうございます。優秀賞ですね。」と笑顔で言われ、周りの手伝いの高校生の皆さんも一緒に拍手をしてくださいました。顧問の先生は、瞬間、驚きの表情でしたが、す

ぐに喜びに変わっていました。私は、何が何だかよく分からずにいて、すぐには実感がわきませんでした。展示会場に入ると、全国の高校生の目を見張るようなすばらしい作品が並んでいて、その中で私の作品が選ばれたことに対して、うれしさと同時に、どうして私の作品が……という不思議な思いもありました。会場の一つひとつの作品から、それぞれに感じられるものがあり、とても良い勉強になりました。自分の作品にも何か感じられるものがあれば、うれしく思います。

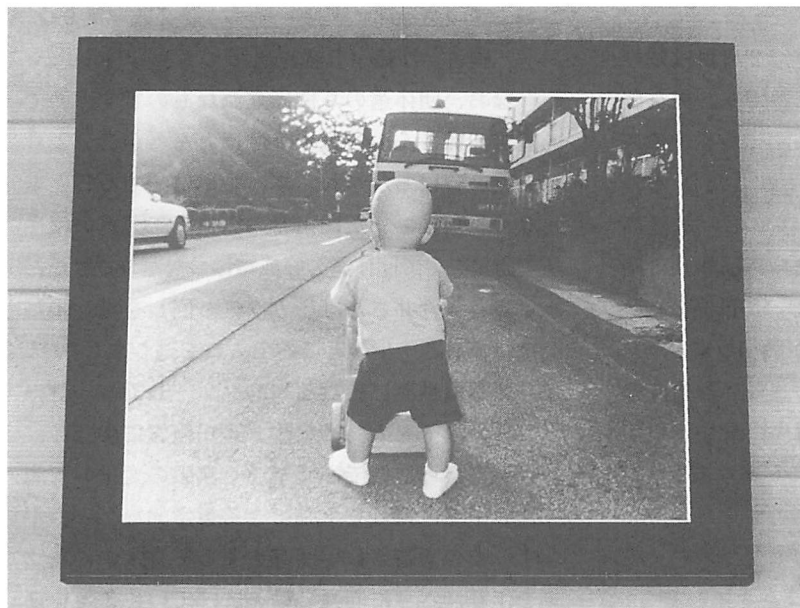
講演会、表彰式などは酒田市総合文化センターで行なわれました。講演では、写真家の江成常夫先生から写真の心についてのお話があり、

講評会では入賞作品をスライドにして、作品の特徴や感じ取れるものなどについて、一つひとつ詳しく解説していただきました。これは、私にとって大変勉強になり、今後の撮影に生かしていこうと思いました。

今回、このような大きな大会に参加でき、賞までいただけたということは、私にとって高校時代の貴重な思い出となりました。

しかし、この賞は自分だけの賞ではないと思っています。顧問の先生方や周囲の人たちのご援助のお陰だと深く感謝しています。

また、全国高総文への出展に当たり、山口県高文連の関係の先生方には大変お世話になり、とても感謝しております。この紙面をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。



▲「お散歩」優秀賞受賞作品



囲碁部門

会場：山形市総合福祉センター

理事長 **安藤 公隆**
(下関工業高等学校教諭)

第23回全国高校総文祭囲碁部門第12回大会は平成11年8月2日（月）～3日（火）山形県山形市総合福祉センターで開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された男子2名、女子1名のチーム編成で42チーム、個人戦は男女各1名ずつで、男子42名、女子38名合計206名の参加がありました。

初日は開会式後4回戦を行い、2日目は残りの2回戦を行う、2日間の6回戦です。男女個人戦、団体戦ともに同時進行、オール互選のスイス方式という競技方法で行われました。

山口県からは、個人戦に足立史招（水産高校）、今井幸恵（宇部女子高校）、団体戦に岡田一貴（宇部高校）、工藤悠治郎（田部高校）、國吉沙織（小野田高校）の5名が参加しました。

試合は、勝者同士を組み合わせていきますので星の潰し合いになります。対局時計を全員使用しますので、非常に厳しいものがありました。

戦績は次の通りです。

<個人戦>

足立 史招（四段） 4勝2敗 14位

今井 幸恵（2級） 3勝3敗 17位

<団体戦>

岡田 一貴（四段）	}	4勝2敗 第9位
工藤悠治郎（三段）		
國吉 沙織（5級）		

なお、団体選の9位は立派なものです。特に國吉沙織さんの対戦相手はほとんどが自分より上であるにもかかわらず、戦いに臆することもなく勝利し、また岡田君の気迫、工藤君の根性で勝星を得て団体選の好成績につながりました。足立君、今井さんは巧みな打ち回しを見せましたが、あと一步のところでの入賞を逃しました。

囲碁は世界に誇れる知的なゲームです。ゲームといっても人為的なルールが極端に少なく、自然の摂理に似て、文字通り無限の変化の可能性の中で、自分を主張できる哲学的なゲームです。この素晴らしい囲碁を通して日本中に友達を作り、さらに同好の輪を広げていくことを期待しています。



演劇部門

会場：山形市民会館

岩陽高等学校

3年 佐々木梨枝

山形大会は「アツイ」大会でした。猛暑でアスファルトがぐにゃぐにゃになって靴の下で揺れていました。大会を振り返る時、そんな暑さの記憶とともに、まず浮かんでくるのは、大会に参加する機会を与えていただいたことへの感謝の気持です。高校演劇部員のあこがれの舞台に立つことができただけでなく、観客や運営の方々は実にたくさんのものを投げ返して下さいました。本当に貴重な体験となりました。演劇部としては言うまでもなく、大会に参加したひとりひとりの、かけがえのない財産の一つにもなっていきそうです。

毎年、高校演劇の全国大会に出場できるのは、中国ブロック大会に出場の各県代表11校の中で最優秀賞となる1校のみでした。中国ブロックの200校あまりの熱演の中、7人の審査員の方々の心を最も揺さぶって全国大会に出場することは、夢のまた夢でした。ブロック大会で予想もなかった評価をいただき、正に一つの夢がかなえられました。正直言って、このことだけでも、私たちは大満足でした。むしろ、ブロックの代表という、これまでとは異質の重いプレッシャーがのしかかってきました。加えて、打ち合わせの舞台監督者会議も含めると、山形まで2往復、全行程10日という遠征は、何をどう準備していけばよいのか見当もつかず、本当に行き当たりばったりで間に合わせたという感じがします。

「山形大会は出場校17校という過去最大の大会で、これまで以上に、地元の高校生や先生方の奮闘なくしては実現しなかったものです。本大会の時はもちろん、舞監会議の時から、山形



▲岩陽高校演劇部

の高校生と先生方の、温かく、行き届いた歓迎と大会運営に触れることができました。」

「新幹線等、交通の便利さにより、山形県外からの事前入場申込者がホールのキャバより多く、地元の高校生は一部の役員を除いて、ホールに入れないという状況に驚きました。」

「山形市民会館のロビーに設置された感想コーナーの大用紙に、たくさんの、知らない高校生や大人の方から、私たちの舞台に対する感想が書き寄せられているのを見た時、上演校にとって、何よりも嬉しい運営だと感謝しました。」

「15校ものレベルの高い舞台を一度に見ることができ、ここに来なかったら、1年かけても、感じたり、学んだりすることができなかったかもしれないことを、わずか3日間で手にすることができたようにさえ感じました。すばらしいものに触れることの大きさや大切さをストレートに実感しました。」

山口に帰った翌日に私たちが書いて出したまとめには、大会の興奮がそのまま残っています。

右も左もわからない1年生の5人を含めた私達17名は、名の通った学校や糸乱れぬ動きを見せてリハーサルを仕上げる学校を目の当りにしながら、とんでもない上演順を引き当てた部長のくじ運の悪さをのろいつつ、17校のトップを切って上演しました。役者もスタッフもガチガチに緊張していました。それまでの1年間で最も充実していた1時間でした。自分たちが一体何をしていたのか思い出すこともできない、夢のような時間が過ぎました。すばらしい舞台を披露した学校と同じステージで、反応がよく、心温かい観客の方々の前で上演できたことに、私たちは大満足でした。

放送部門

会場：山形市中央公民館ホール

『熱き街・山形』

山口農業高等学校 2年 重本 和宏

山形の第一印象、それは「暑い」この一言に尽きました。新幹線を降りると猛烈な暑さが僕達を迎えました。その暑さは山形の人の総合文化祭にかける熱さそのもののよう感じられました。

さて、今回の総合文化祭放送部のテーマは「方言」でした。幸いにも僕は中学生の時から方言に非常に興味があり、いつか「山口弁」に関する作品を作って、全国に山口弁を知らしめたいと思っていたので、よい機会となりました。

一日目、僕はアナウンス部門に出場しました。本番の空気はちょっと張り詰めていて、審査員の方々の視線が少し怖かったのを覚えています。発表するステージは、座って読むマイクと、立って読むスタンドマイクがありました。ほとんどの人が座って読む中、僕は「ここでスタンドマイクを使うと目立つだろうな。」と考えて急遽立って読むことにしました。それで目立てたかは定かではありませんが、方言検定の内容に触れた時に、審査員席を含め会場に少し笑いが起こり、僕は「やったな」と一人ほくそ笑んでいたものでありました。

二日目も、うだるような暑さで、沖縄の人が「沖縄より暑い。」と言う程の折り紙付きでした。交差点で信号待ちの時に、花笠音頭が流れるのを聞くと、改めて山形に來ている事を実感しました。この日はビデオメッセージの発表でした。待つ間に他県の発表を見ていて参考になるものもあれば、これはちょっと頂けないというものもありました。その中で自分達の作品が

どういう評価を受けるか心配でした。入賞はできませんでしたが、見た人に「おもしろかった。」と言ってもらった時は何より嬉しかったです。

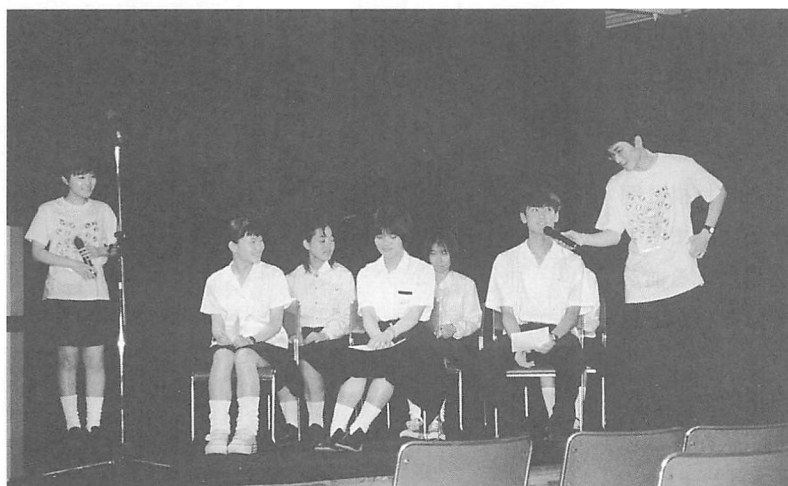
ところで今回の山形大会では「交流うちわ」なるものがあり、その目的は、お互い「うちわ」にメッセージを書いて、交流を深めようというものでした。それに「何か書かせてくれ」と言われ、僕はつい「えーよ。」といつもの調子で答えてしまいました。その刹那、頼んで来た高校生は僕を見て、目を点にして呆然と立ち尽くしましたが、すぐにそれを方言だと納得した様子でした。それをきっかけにその人と打ち解け、山形弁を教えてもらったり、山口弁を教えたりして楽しいひとときを過ごしました。その時僕は、「方言って通じんかったりして厄介なこともあるけど、打ち解け合う時の潤滑油みたいな働きもするんだなあ。」と実感したのでした。それから閉会式まで僕はうちわにメッセージをもらうのに奔走しました。山形をはじめ長野や東京の人にも書いてもらいましたが、中でも一番印象深かったのは福島の人でした。その人はまたま会津若松の人だったのです。こっちは山口（長州）、相手は会津若松。もうお分かりだと思いますが、昔のいざこざが今もまだ残っているのです。幸い、その人はあまり山口を悪く思っていなかったのですが、その人の祖父母さん方は未だに山口を快く思っていないそうです。こういった歴史的な面でも山形大会は僕にいい影響を与えてくれました。その他にも実行委員長や総合司会者さん達とも仲良くなってきました。FDの某氏にベニーちゃんの書き方を教えてもら

った時は、ただでさえ暑いのにさらに熱くな
てしまいました。ベニーちゃんは山形大会のマ
スコットで紅花だとか。その形容し難いかわい
さに僕の心は完全に彼女？に奪われてしまいま
した。血迷った僕はベニーちゃんを連れて帰ろ
うと画策するも、失敗に終わりました。

そうこうするうちに飛行機の都合で山形とベ
ニーちゃんに別れを告げることになりました。
空港までのバスの中で和歌山の人と一緒になり

ましたが、空港に着くと彼等とも別れました。
飛行機が離陸して山形の夜景を見下ろすと、心
底名残惜しく感じました。

以上、発表にも交流にも、それと観光にもぬ
かりなかった山形大会でした。いつかまた山形
へ行き、その時はベニーちゃんに奪われたまま
の僕の心を取り戻し、ついでに連れて行きたい
と考えてます。もしそうできたら、ぶち幸せです。



将棋部門

会場：天童市市民プラザ

常任理事 **尾崎 明弘**
(宇部高等学校教諭)

第23回全国高校総文祭将棋部門が、7月31日・8月1日の2日間、山形県天童市の天童市市民プラザで行われました。山形県はさすがに遠く、何度も列車を乗り換え、丸一日かかって、ようやく到着しました。天童市は将棋の街として有名なだけあって、街のいたるところに将棋に関係したものがあり、将棋をするために集まってきた全国の高校生にとっては、会場に入る前から胸の踊るような気分だったのではないかと思います。

大会には男子団体44チーム、女子団体25チーム、男子個人45人、女子個人79人の計331人が参加しました。本県の選手の戦績は次の通りです。

＜男子団体＞

宇部高校（浦野亘弘・馬場祐樹・見坂卓郎）

1回戦 日立第一高校（茨城県）…… 勝ち

2回戦 山形工業高校（山形県）…… 負け

＜男子個人＞ 近江徹哉（防府高校）

1回戦 鎌田 研（近大和歌山高校）

…… 負け

＜女子個人＞ 佐竹典子（宇部高校）…第3位

1回戦 岩鼻優香（花巻北高校）…… 勝ち

2回戦 露木梨江（伊勢原高校）…… 勝ち

3回戦 森田ひとみ（磐田東高校）… 勝ち

4回戦 佐藤亜希（野沢北高校）…… 勝ち

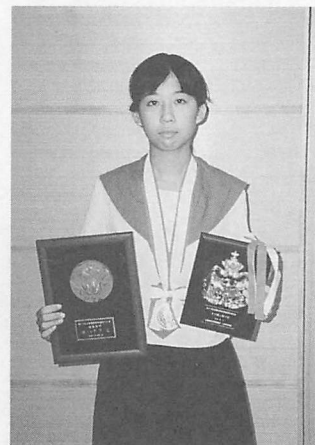
準決勝 橋本美峰子（群馬中央高校）…負け

男子は団体・個人とも実力を十分発揮できず残念な結果に終わりましたが、女子選手として本県からはじめて参加した佐竹典子さんがそれを補って余りある大活躍をし、見事第3位に入賞しました。敗れはしましたが、準決勝の終盤での迫力ある追い込みは観戦者の注目を浴び、



わずかに及ばず勝負が決まったときは、あちこちから同時に多くのため息が漏れるほどでした。

山形県は食べ物も美味しく、地元の人々もみんな親切で、選手の活躍もあわせて、心に残る大会参加となりました。



山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(1)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演劇	金管合奏
1	安下庄	63				平7	平4平10		
2	久賀	63					平3	平10	
3	岩国								平1
4	岩陽						平11		平1
5	岩国商業			平3				62	
6	岩国工業						平2	平6平8	
7	坂上			63	平11		平5	平3	
8	広瀬			63					
9	高森						平2		
10	柳井						平7	平11	
11	柳井商業						平11		
12	柳井工業							平1平4平11	
13	熊毛南	63					平6	※	
14	田布施農業						平3	平5	
15	田布施工業								
16	光	63					平8		
17	光丘						平8平11		
18	熊毛北						平2	63平7	
19	下松	63			※	平7			
20	華陵	63					平8	平1	
21	下松工業						平1		
22	徳山		定平4		定平10	定平8		※	
23	徳山北		63				平4平11	平8	
24	徳山商業		平5	63				平3	
25	徳山工業							平4平7	平1
26	鹿野		平3		平10			平1	
27	新南陽	63						平5	
28	南陽工業		平1				62		
29	佐波			63		平7			
30	防府								
31	防府西						平10		平1
32	防府商業		定63				※	平6	平1
33	山口		定62				平2		
34	山口中央	63	※		平10				
35	西京	62					平4	平7	
36	山口農業						平5	平3	
37	宇部	63							
38	宇部中央		定平1				平10	63	
39	宇部西							平10	
40	宇部商業			63			62平6	平3	
41	宇部工業			平2			平8		
42	小野田		定63						
43	小野田工業		定63					平4	
44	厚狭			平1				平9	
45	美祢	62			平9		平4	平2	
46	大嶺		平4					63	
47	美祢工業						63	平10	

ピアノ……………弘中 孝
マリンバ……………水野与旨久
フルート……………西田直孝トリオ
トランペット…田宮堅二

胡弓……………姜建華・楊宝元
尺八と箏……………中村明一、八木美知依
オベレッタ…木月京子
交響楽団……………山口県交響楽団

演劇……………のんた・宇部芸術座・海峽座
金管合奏……………東京金管五重奏団
(注) <62～平11……………実施年度>
<※印……………平成12年度実施予定>

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(2)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	ホルン トランペット	尺八と箏 オベレック	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部						平 1		
49	西 市						63		
50	豊 浦								
51	長 府								平1
52	下 関 西								
53	下 関 南								
54	下 関 第 一							平 5	
55	下関中央工業						※	平 6	
56	下 関 工 業	62						平 2	
57	響		平 5				平 1		
58	豊 北	62					平 3		
59	日 置 農 業	63	平 5			平 9		平 2	
60	大 津	63					※	平 5	
61	水 産						※		
62	萩	63					平 3	平 6	
63	萩 商 業	63					平 7	平 2 ※	
64	萩 工 業						平 6	平 4 平 9	
65	徳 佐			分 63			63平10		
66	奈 古				平11		平 1 平 9		
67	盲	63	平 3			平 8 平10	平 7	平 1	
68	聾								
69	岩 国 養 護		平 3					平10	
70	田 布 施 養 護		平 6				62		
71	徳 山 養 護		平11	平 1					
72	周 南 養 護								
73	防 府 養 護	62	平 3	63	※			平 1	
74	山 口 養 護								
75	宇 部 養 護		63平 5				平 9		
76	下 関 養 護		平 2 平 6						
77	豊 浦 養 護		平11						
78	萩 養 護		平 6						
79	下 関 商 業								
80	高 水							62	
81	柳 井 学 園		平 6					63	
82	聖 光						平 2		
83	山口県桜ヶ丘								
84	三 田 尻 女 子							平 7 平 9	
85	多々良学園								
86	中 村 女 子	63					平 2 平 5	平11	
87	野 田 学 園	63							
88	山口県鴻城						平 9	※	
89	宇 部 鴻 城						平 7	平 9	
90	宇 部 女 子								
91	美 祢 中 央								
92	香 川						平 1 平 5	平11	
93	サ ビ エ ル					平 7			
94	早 鞆								
95	下関女子短期大学付属	62 63	平 4					平 8	
96	長 門						平 6		
97	萩 光 塩 学 園								

(注) <62~平11……実施年度><※印……………平成12年度実施予定>

《自主事業》 山口県交響楽団演奏会

徳山北高等学校

2年 山本 竜也

中学の時一度だけオーケストラのコンサートを見たことがあったけど、今回のコンサートは前とはぜんぜん違っていた。なぜかというところではなく、学校の体育館で、目の前で聴くことができたからだ。曲目もほとんどがみんな知っている曲だったからよかった。僕は『天空の城ラピュタ』より「君を乗せて」という曲が好きだった。フルートだけのソロがしみりしているところが特に好きだ。

このコンサートの数日前に、指揮者を急に頼まれて今回指揮者をする事になった。最初は「指揮者なんてカンタン!」とか思っていたが、いざ本番でやってみると「なんでこんなに音がズレるの!」と思った。しかもすごい遅いテンポになって皆は笑っていた。けど、オーケストラの指揮者なんて、この先の人生でやるってことはないだろうと思うので、今回はとてもいい経験をしたのではないかなと思った。

これからはオーケストラの曲をもっと聴いたりするかもしれない…かな。

徳山北高等学校

2年 高藤 利恵

今回、交響団体のオーケストラの方々に来れるというのを知って、私は凄くドキドキしていました。

オーケストラの演奏を聴くのは、初めてだったせいもありますが、私は音楽がとても好きでテレビでオーケストラの演奏を聴いたりして『自分の耳で、生で聴いてみたい』と思っていたからです。オーケストラの演奏は、私が思っていたよりもとても迫力があり、一曲一曲、聴く度に心臓がドキドキして、落ち着くことがありませんでした。

それだけでも十分なのに、代表として、指揮者の体験もさせて頂いて、本当に良い経験が出来ました。初めは、緊張してしまい上手く出来るか心配だったけど、やっているうちに、だんだん楽しくて、自分の振っている一つの指揮棒にみなさんが集中していて……と考えると、とても嬉しい気持ちになりました。

演奏された曲も、日頃、私達が耳にしている曲がほとんどで、けどその中にゆったりと耳を

傾けることができる様な曲があったり、思わず力が入ってしまう様な激しく迫力のある曲があったり、本当に素敵な時間でした。

又、聴いてみたいです。本当にありがとうございました。



《自主事業》水野与旨久マリンバコンサート

『マリンバを聴いて』

豊浦養護学校

2年 児玉美枝子

私は、マリンバを聴いてみて、すごくいい音色だったので感動しました。なぜかという、一つ一つの演奏がきれいに響いていたからです。私は、一生私の胸の奥底にすばらしいマリンバの音色が響いていることだと思います。私は、たった一度しかマリンバを聴いたことがなかったから、すばらしいと思っていたからです。もう一度、すばらしい、マリンバを聴いてみたいと思います。



《自主事業》～二胡と中国琵琶～

『中国の音楽にふれて』

奈古高等学校 3年 三海 清美

6月17日、阿武町ホールで中国の楽器二胡と琵琶でのすばらしい演奏を聞きました。楊さんと姜さんが登場した時、初めて見る中国の楽器に少しびっくりしました。

「どんな音色なんだろう。早く聴きたいな。」と思いました。琵琶を演奏する楊さんと二胡を演奏する姜さんが、楽器を演奏し始めた時、二人なのに大きいホールでのあのすばらしい響きと、指揮者がいないのに、ぴたっと合った音にとっても驚きました。

演奏を聞いていくにつれて、二つの楽器の音色の違いが分かりました。琵琶は、思ったよりもしぶい音で、あまり音が大きくなく、イメージで言うと『バンバン』といった感じでした。

二胡は、日本でいう三味線のような音かと思っていましたが、バイオリンのような音で琵琶よりも大きい音が出ていました。

日本の曲を演奏してくれた時、しみじみと心に響いてきました。特に赤とんぼは、情景が頭にぼわ～んと浮かびました。とっても感動しました。

全ての演奏を聴いて思ったことは、中国と日本は近いだけあって、音楽の方面も少しは共通する所があると思いました。その反面、日本とは全く違った所もあり、とっても新鮮でした。楊さんと姜さんは、世界を代表する奏者なので、本当にすばらしい演奏でした。

高校生活最後の年に、こんなすばらしい演奏が聞けて、とっても良かったです。ありがとうございました。



『ジョイントコンサートを聴いて』

奈古高等学校 3年 原 未来

6月17日に、二胡と中国琵琶のジョイントコンサートを聴きに行きました。私は、あの映画『ラストエンペラー』で中国琵琶を独奏された方がいらっしゃるということで、とても楽しみにしていました。

席について、演奏がはじまりました。その中

には、『ラストエンペラー』の曲も入っていて、とてもうれしかったです。中国の曲もとてもテンポよく、明るい感じの曲で「なんだか、中国って感じの曲だなあ」と思いました。それに、中国の曲を、ずっと演奏されるのかと思っていたけど、そうじゃなくて、日本の曲や、日本の童謡もたくさん演奏してくださいました。いつもは、日本の曲は、ピアノとかでしか聞いたことがなかったので、中国琵琶や二胡で演奏してもらって、ピアノとかとは、また違った新鮮さと音の美しさがあって、とてもすてきでした。中国琵琶や二胡は、日本の曲にとっても合うなと思いました。一番最後に演奏されたソーラン節は、とてもおもしろかったです。

最後になりましたが、中国琵琶や二胡のように、山口に住んでいるとなかなか聴くことがないので今回ジョイントコンサートが聴けてとてもうれしかったです。ありがとうございました。

《自主事業》巡回演劇公演

『演劇を見て』

中村女子高等学校

食物調理科 2年 松戸 聖子

まず初めに、この演劇を見るという事を聞いた時、その頃はちょうど試験中だったし、良い気分転換になると思い、とても楽しみにしていました。同時に、演劇を見る機会など減多にないわけだからという好奇心もあったと思います。

実際に見てみても、それらの期待に応えるような、すばらしい演技の数々だったのを覚えています。一つ一つの細かなしぐさまで、役になりきり、一生懸命伝えようとしている姿は、本当に演技をするのが好きなんだなあという事を感じさせるようでした。

役を演じている人もすごいと思ったけど、劇

をするには、おおぜいの人達が団結して一つになってこそできるものだと思うので、そういう点ではとても協力してやっているんだというのを感じました。

内容に関しては、一番印象に残った場面は、ひょっとこ鬼が笛を吹いた時、カップパ姫が目が



見えないのに、良い人だと見抜いた所でした。
現実でもこういう事はきっと分かってしまうん
だと思います。たとえ、目が見えなくても見え
ない分、余計に感じてしまう事もあると思います。

最後のラストシーンについては、この演劇全
体の良さが見えるようでした。

劇団の皆さんの一生懸命な演技に感動しまし
た。ありがとうございました。

舞台芸術ふれあい教室（文化庁主催）

オーケストラ公演／大阪センチュリー交響楽団（於 長府高校）



第1回 高校生文芸道場

中国・四国合同大会（広島大会）



第14回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

	県名	学校数	小 説	文芸評論	随 筆	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応募点数
1	北海道	11	13 (16)		1 (1)	21 (46)	9 (9)	36 (57)	3 (3)	83 (132)
2	青森	33	5 (7)		1 (1)	56 (406)	50 (1,025)	64 (1,306)	2 (2)	178 (2,747)
3	岩手	29	14 (141)		6 (48)	25 (518)	159 (1,143)	81 (4,048)	1 (1)	286 (5,899)
4	宮城	5	4 (4)	1 (1)		3 (3)			1 (1)	9 (9)
5	秋田	20			1 (1)	20 (143)	39 (65)	99 (170)	3 (3)	162 (382)
6	山形									0 (0)
7	福島	7	8 (8)			9 (9)			4 (4)	21 (21)
8	茨城	9	5 (5)	1 (1)	1 (1)	7 (18)	6 (15)	5 (15)	4 (4)	29 (59)
9	栃木	6	5 (5)		1 (1)	8 (15)		5 (155)	3 (3)	22 (179)
10	群馬	17	16 (18)	1 (1)	1 (3)	23 (25)	15 (15)	15 (15)	7 (7)	78 (84)
11	埼玉	11	19 (19)		20 (20)	10 (10)			5 (5)	54 (54)
12	千葉	9	5 (5)		2 (2)	1 (1)	37 (37)	60 (60)	2 (2)	107 (107)
13	東京	15	37 (60)	1 (1)	15 (45)	21 (78)	22 (144)	33 (53)	2 (2)	131 (383)
14	神奈川	12	7 (10)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	36 (22)	24 (717)		86 (768)
15	山梨	16	2 (54)	1 (1)	4 (15)	5 (276)	18 (446)	17 (24)		47 (816)
16	新潟	4	3 (4)			3 (3)				6 (7)
17	富山	7	4 (4)		1 (1)	16 (38)	15 (93)	18 (105)	2 (2)	56 (243)
18	石川	1	2 (2)			12 (12)	3 (3)	3 (3)		20 (20)
19	福井	12	3 (20)	1 (1)		6 (123)	20 (171)	20 (66)		50 (381)
20	長野	2	1 (1)				13 (13)		1 (1)	15 (15)
21	岐阜	6	3 (3)		1 (1)	4 (4)		6 (3)	4 (4)	18 (15)
22	静岡	12	8 (51)	1 (1)	1 (1)	23 (23)	17 (23)	23 (25)	3 (3)	76 (127)
23	愛知	10	13 (13)		7 (7)	7 (7)	17 (17)	8 (8)	2 (2)	54 (54)
24	三重	3	1 (1)		3 (3)	7 (7)	3 (3)			14 (14)
25	滋賀	3	8 (8)		3 (3)	24 (24)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	45 (45)
26	京都	3	7 (7)		1 (1)					8 (8)
27	大阪	9	5 (5)		1 (10)	13 (13)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	31 (40)
28	兵庫	7	2 (2)			6 (6)			1 (1)	9 (9)
29	奈良	4				16 (20)	44 (128)	69 (105)	1 (1)	130 (254)
30	和歌山	4	2 (2)			10 (10)				12 (12)
31	鳥取									0 (0)
32	島根	7	5 (5)		1 (1)	16 (16)	6 (6)	15 (141)	1 (1)	44 (170)
33	岡山	5	6 (12)		2 (2)	27 (173)	6 (63)	26 (401)		67 (651)
34	広島	8	8 (8)			7 (7)	24 (63)	19 (60)	3 (3)	61 (141)
35	山口	6	15 (17)			2 (2)			5 (5)	22 (24)
36	徳島	4	3 (3)						1 (1)	4 (4)
37	香川	4	3 (3)				3 (3)		2 (2)	8 (8)
38	愛媛	7	7 (7)			5 (164)	18 (18)	13 (13)	1 (1)	44 (203)
39	高知	2	2 (2)			1 (1)				3 (3)
40	福岡	5	8 (8)			3 (3)			1 (1)	12 (12)
41	佐賀	1				1 (1)				1 (1)
42	長崎	4	3 (3)			8 (8)	3 (3)		1 (1)	15 (15)
43	熊本									0 (0)
44	大分	11	3 (30)			9 (120)	22 (140)	22 (98)		56 (388)
45	宮崎									0 (0)
46	鹿児島	1	1 (1)							1 (1)
47	沖縄	7	7 (7)			33 (34)	9 (9)	229 (574)		279 (625)
受付点数		359	273 (581)	8 (8)	76 (160)	484 (2,383)	626 (3,689)	916 (8,228)	71 (71)	2,454 (15,130)
応募数総計			581	8	170	2,383	3,689	8,228	71	15,130

※ () は県又は学校段階での応募数を含めた数

第14回全国高等学校文芸コンクール 部門別応募状況一覧

区 分	応募点数	応募者数	学 年 別			男 女 別		応募総数 (選抜前)
	点	人	1	2	3	男	女	
小 説	273 (220)	244 (205)	73 (54)	90 (89)	81 (62)	48 (50)	196 (155)	581 (763)
文芸評論	8 (10)	8 (10)	0 (1)	3 (3)	5 (6)	4 (6)	4 (4)	8 (24)
随 筆 (エッセイ)	76	72	33	24	15	20	52	170
詩	484 (473)	313 (304)	62 (69)	147 (107)	104 (128)	43 (61)	270 (243)	2,383 (2,060)
短 歌	626 (1,545)	221 (532)	58 (81)	73 (315)	90 (136)	40 (157)	181 (375)	3,689 (5,759)
俳 句	916 (847)	340 (362)	125 (132)	101 (114)	114 (116)	99 (120)	241 (242)	8,228 (10,778)
文芸部誌	71 (52)	71 (52)						71 (52)
合 計	2,454 (3,147)	1,269 (1,465)	351 (337)	438 (628)	409 (448)	254 (394)	944 (1,019)	15,130 (19,436)

※数字は事務局受付分、()は昨年度

	年度	都道府県	応募校	応募点数	応募者数	応募総数
第1回	S 61	17	110	890	630	
第2回	S 62	30	202	1,977	1,297	
第3回	S 63	35	210	1,830	1,235	
第4回	H 1	39	235	1,990	1,347	
第5回	H 2	41	240	2,112	1,286	
第6回	H 3	41	269	2,533	1,595	15,842
第7回	H 4	42	282	2,798	1,531	16,370
第8回	H 5	41	290	1,919	1,173	17,512
第9回	H 6	37	271	2,834	1,643	19,143
第10回	H 7	43	293	5,225	2,638	21,214
第11回	H 8	40	278	2,726	1,447	26,898
第12回	H 9	40	294	3,016	1,491	25,846
第13回	H10	41	303	3,147	1,465	19,436
第14回	H11	43	359	2,454	1,269	15,130

※応募総数は、各都道府県段階における応募数

第14回全国高等学校文芸コンクール 入賞作品数一覧

区 分	応募点数	応募者数	文部大臣 奨励賞	読売新聞 社賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入 選 (奨励)賞	合 計
小 説	273 (220)	244 (205)	☆ (1)	☆ (1)	1 (1)	3 (4)	5 (5)	6 (7)	15 (17)
文芸評論	8 (10)	8 (10)			-- (0)	-- (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
随 筆 (エッセイ)	76 (--)	72 (--)			-- (--)	1 (--)	2 (--)	4 (--)	7 (--)
詩	484 (473)	313 (304)	(1)	☆ (1)	1 (1)	5 (5)	10 (10)	9 (7)	25 (23)
短 歌	626 (1,545)	221 (532)	☆		1 (1)	4 (6)	10 (11)	15 (13)	30 (31)
俳 句	916 (847)	340 (362)		☆	1 (1)	5 (6)	11 (11)	13 (13)	30 (31)
文芸部誌	71 (52)	71 (52)	☆ (1)		1 (1)	3 (3)	5 (4)	8 (4)	17 (12)
合 計	2,454 (3,147)	1,269 (1,465)	3 (3)	3 (3)	5 (5)	21 (24)	44 (41)	56 (44)	126 (114)

※ () は昨年度

第14回全国高等学校文芸コンクール 受賞作品（山口県）

小説部門	優 良	県立山口高等学校 3年 村田 佳奈美	『夜明け前』
文芸部誌	優秀賞	県立山口高等学校 文 芸 部	無蓋車51号
	奨励賞	県立防府高等学校 文 芸 部	レセダ45号

平成11年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事	業	会 場
4	14 21		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	7 17 20 21 25 30	水野与旨久マリンバコンサート 水野与旨久マリンバコンサート 巡回演劇「宇部芸術座」 県高校総合文化祭（将棋）	全国高等学校文化連盟評議委員会 全国高等学校文化連盟 地区代表者会議 評議委員会議	防府市 徳山養護学校 豊浦養護学校 中村女子高校 東京都フロラシオン青山 中国新聞山口支社
6	14 17 18 19-20 20 25 25	姜建華・楊宝元ジョイントコンサート 姜建華・楊宝元ジョイントコンサート 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング） 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 巡回演劇「宇部芸術座」	 会議 中国地区高文連関係者合同会議	坂上高校 奈古高校 スタービアクだまつ スタービアクだまつ 美祢市民会館 香川高校 山口市
7	19 30～ 31	平成10年度「高文連」発行 全国高校総合文化祭	 全国高等学校文化連盟拡大理事会	山形県 山形県
8	～3 28-29	全国高校総合文化祭 第10回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟各専門部会	山形県 東京都 国立劇場
9	20	舞台芸術ふれあい教室（オーケストラ）		長府高校
10	6 6 23-24 24	山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（演劇） 県高校総合文化祭（囲碁）		柳井商業高校 岩陽高校 シンフォニア岩国 下関工業高校
11	4 7 9 9 10 12-14 19	巡回演劇「のんた」 県高校総合文化祭（放送） 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（美術・工芸、書道、写真） 巡回演劇「のんた」	 第1回高文連理事長会	柳井工業高校 ニューメディアプラザ山口 徳山北高校 光丘高校 山口中央高校 ときわ湖水ホール 柳井高校
12	21	平成11年度「高文連会報」発行		
1	20-21		全国高等学校文化連盟研究大会	滋賀県
2	5 9 23		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	（下旬）	第18回器楽管弦楽スプリングコンサート		柳井市
【その他】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（華陵高校） 展示関係3部門（宇部西高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（大嶺高校） 演劇部（岩陽高校） 囲碁部（下関工業高校） 放送部（山口農業高校） 将棋部（防府商業高校） 各専門部会 各専門部研修会				
			主管校において開催	
			部会長校を中心に開催	
			県下各地において開催	

山口県高等学校文化連盟 【共催】 第3回やまぐち県民文化祭・第38回山口県吹奏楽コンクール
第3回やまぐち県民文化祭・第54回山口県合唱コンクール山口県大会
第23回アンサンブルコンテスト山口県大会

【後援】 第5回山口県盲・聾・養護学校文化祭美術作品展示会
第12回全日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成11年度 山口県高等学校文化連盟会計【決算書】

〔収入の部〕

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	2,471,883	2,471,883	0	
会 費	17,865,000	17,480,250	△ 384,750	全日制 350円×49,760人 定時制・盲・聾・養 50円×1,285人
学 校 負 担 金	139,300	136,300	△ 3,000	30学級減 100円×1,363学級
補 助 金	7,633,000 (内訳) 1,790,000 5,843,000	7,633,000 (内訳) 1,790,000 5,843,000	0 (内訳) 0 0	県総文祭県補助金 全総文祭県補助金
調整基金から繰入	1,500,000	1,500,000	0	
雑 収 入	19,817	19,583	△ 234	利 息
合 計	29,629,000	29,241,016	△ 387,984	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	900,000	843,559	△ 56,441	
事務用品費	(内訳) 255,000	(内訳) 237,742	(内訳) △17,258	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	388,000	348,817	△39,183	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	247,000	247,000	0	全国高文連分担金
〔会 議 費〕	2,618,000 (内訳) 450,000 1,124,000 1,035,000 9,000	1,928,158 (内訳) 375,510 867,190 684,913 545	△ 689,842 (内訳)△ 74,490 △ 256,810 △ 350,087 △ 8,455	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会) 全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議) 事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等) 監査旅費
〔事 業 費〕	25,046,000 (内訳) 8,056,000 11,191,000 2,624,000 200,000 1,685,000 1,290,000	22,443,023 (内訳) 6,682,238 10,354,735 2,624,000 80,000 1,448,350 1,253,700	△ 2,602,977 (内訳) △ 1,373,762 △ 836,265 0 △ 120,000 △ 236,650 △ 36,300	総合開会式 各部門大会開催費 生徒旅費・引率教員旅費532万 運送費31万 12公演 高文連(特殊教育) 研修費 通信費 高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター
〔調 整 基 金〕	0	0	0	
〔予 備 費〕	1,065,000	0	△ 1,065,000	
合 計	29,629,000	25,214,740	△ 4,414,260	

(収入) 29,241,016円 - (支出) 25,214,740円 = (繰越) 4,026,276円

平成11年度 調整基金会計決算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計へ繰出	今年度末残高
10,500,000	1,500,000	9,000,000

上記の通り相違ありません。

平成12年4月13日

監 事

野 村

松

監 事

林

佐

二

平成12年度 山口県高等学校文化連盟【事業計画】

月	日	事	業	会 場
4	13 20		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	10 12 23 28	水野与旨久マリンバコンサート 県高校総合文化祭（将棋）	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟地区代表者会議、 評議委員会	山口中央高校 徳山市 東京都フロラシオン青山 中国新聞山口支社
6	13 15 16 17～18 18 21 21 21 (下旬)	田宮堅二トランペットコンサート 田宮堅二トランペットコンサート 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング） 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 平成11年度「高文連」発行	 中国地区高文連関係者合同会議	防府養護学校 下松高校 防府市公会堂 防府市公会堂 シンフォニア岩国 大津高校 水産高校 山口市
8	5～9 6 26～27	全国高校総合文化祭 第11回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟各専門部会 全国高等学校文化連盟拡大理事会	静岡県 静岡県 東京都 国立劇場
9	20 27	巡回演劇「劇団海峡座」 舞台芸術ふれあい教室（音楽劇）		萩商業高校 熊毛北高校
10	4 11 14～15 27 27 29	巡回演劇「宇部芸術座」 巡回演劇「のんた」 県高校総合文化祭（演劇） 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（囲碁）		徳山高校 熊毛南高校 防府商業高校 下関中央工業高校 下関市文化会館 下関工業高校
11	(上旬) 5 8 17～19 18	県高校総合文化祭（放送） 第2回高校生文芸道場中国ブロック大会 県高校総合文化祭（美術・工芸、書道、写真） 巡回演劇「劇団海峡座」	第1回高文連理事長会	山口中央高校 ニューメディアプラザ山口 島根県 山口市市民会館 県鴻城高校
12	(中旬)	平成12年度「高文連会報」発行		
1	25		全国高等学校文化連盟研究大会	佐賀県
2	1 (上旬) (下旬)		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第19回器楽管弦楽スプリングコンサート		
【その他】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（防府西高校） 展示関係3部門（山口高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（岩国商業高校） 演劇部門（田部高校） 囲碁部門（下関工業高校） 放送部門（山口農業高校） 将棋部門（防府商業高校） 各専門部会 各専門部研修会 ----- 主管校において開催予定 ----- 部会長校を中心に開催予定 ----- 県下各地において開催予定				

平成12年度 山口県高等学校文化連盟会計【予算書】

(単位：円)

[収入の部]

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	4,026,276	2,471,883	1,554,393	
会 費	17,757,200 (内訳) 17,570,000 50,000 137,200	18,004,300 (内訳) 17,815,000 50,000 139,300	△ 247,100 (内訳) △ 245,000 0 △ 2,100	全日制 350円×50,200人 定時制・盲・聾・養 50円×1,000人 学校負担金 100円×1,372学級
補 助 金	6,146,400 (内訳) 1,472,000 4,674,400	7,633,000 (内訳) 1,790,000 5,843,000	△ 1,486,600 (内訳) △ 318,000 △ 1,168,600	県総文祭県補助金 全総文祭県補助金
調整基金から繰入	0	1,500,000	△ 1,500,000	
雑 収 入	12,124	19,817	△ 7,693	利 息
合 計	27,942,000	29,629,000	△ 1,687,000	

[支出の部]

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	828,000	900,000	△ 72,000	
事務用品費	(内訳) 220,000	(内訳) 255,000	(内訳) △ 35,000	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	350,000	388,000	△ 38,000	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	248,000	247,000	1,000	全国高文連分担金
〔会 議 費〕	2,031,000	2,618,000	△ 587,000	県内会議 全国会議 事務局旅費 監査旅費
〔事 業 費〕	21,767,000	25,046,000	△ 3,279,000	
県 総 文 祭	(内訳) 8,472,000	(内訳) 8,056,000	(内訳) 416,000	総合開会式 各部門大会開催費
全 総 文 祭	7,782,000	11,191,000	△ 3,409,000	生徒旅費552万 引率教員旅費161万 運送費65万
自 主 事 業	2,498,000	2,624,000	△ 126,000	11公演
大会補助金	100,000	200,000	△ 100,000	高文連(特殊教育) 中国地区高文連会議
専門部会費	1,685,000	1,685,000	0	研修費 通信費
印 刷 費	1,230,000	1,290,000	△ 60,000	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 他
〔調 整 基 金〕	1,500,000	0	1,500,000	
〔予 備 費〕	1,816,000	1,065,000	751,000	事務機器 全総文個人 文芸道場
合 計	27,942,000	29,629,000	△ 1,687,000	

平成12年度 調整基金会計予算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計へ繰入	今年度末残高
9,000,000	1,500,000	10,500,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成9年4月1日改正

第 1 章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第 2 章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13人 |
| (3) 評議員 95人以上 | (6) 専門部理事長 13人 |
| (会長及び副会長を含む。) | (7) 監 事 2人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(4) 監事は、評議員の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

(3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

(4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (2) 企画運営委員会 (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係わる重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係わる軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 諸規程

[会計規定]

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月11日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

＜会費内訳＞ 各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円
(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円
各学校負担金 (定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)
学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長

(2) 事務局員 ア 総務係

 イ 庶務係

 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。

第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[表彰規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者。

- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。
- 第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。
- 第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

- 第9条 本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

- 第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

- 第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。
- 第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規定は、昭和62年4月1日から実施する。

[旅費支給基準]

昭和62年4月1日制定
昭和63年4月25日改正
平成元年4月1日改正
平成11年4月1日改正
平成13年4月1日改正(予定)

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
ただし、その際の役員日当は1,700円とし、宿泊費は5,000円(打切り)とする。
- 3 全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体割引)+宿泊費(大会規定料金)×2泊]× $\frac{1}{2}$ とする。
 $\frac{1}{3}$

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)

- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成11年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長 " "	西 田 昇 田 中 功 小 川 達 朗 五 十 部 益 一		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 中 村 女 子 高 校
支 部 長 " " " " " "	田 中 功 河 野 勝 行 浜田紀郎、斎藤忠壽 西 田 昇 星 出 文 生 今 橋 靖 刀 川 本 紘 三	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 防 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 長 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " "	池 田 武 久 今 橋 靖 刀 川 本 紘 三 流 田 正 士 縄 田 研 吾 芳 西 靖 幸 (休 部) 池 田 通 夫 福 田 徳 郎 黒 瀬 孝 夫 渡 邊 清 志、田 中 貢 造 竹 藤 朔 郎 中 村 祥 典	演 劇 部 門 器 楽・管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・バ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術・工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 防 府 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 山 口 高 校 宇 部 工 業 高 校 下 関 工 業 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " "	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 有 富 美 子 和 田 道 明 花 村 慈 照 伊 藤 由 紀 子 (休 部) 平 田 博 英 古 屋 元 子 大 濱 進 治 安 藤 公 隆 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽・管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・バ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術・工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 防 府 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 山 口 高 校 宇 部 工 業 高 校 下 関 工 業 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
監 事 "	中 村 祥 典 野 村 稔		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 庶 務・会 計 "	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 郎 大 黒 昌 子 (村岡悠子) 豊 川 眞 利 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

平成12年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長 " " " "	西 田 昇 岡 崎 天 隆 小 川 達 朗 五 十 部 益 一		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 中 村 女 子 高 校
支 部 長 " " " " " " " " " "	岡 崎 天 隆 片 山 淳 斎 藤 忠 壽 西 藤 田 昇 星 出 文 生 村 中 本 出 夫 川 本 紘 三	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 口 中 央 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	池 田 武 久 村 中 日 出 夫 川 本 紘 三 藤 本 本 範 縄 田 研 吾 吉 本 侃 司 (休 部) 池 田 通 夫 福 田 郎 黒 瀬 孝 夫 田 中 貢 造 竹 林 藤 朔 郎 林 佳 二	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ ントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 光 丘 高 校 宇 部 女 子 高 校 防 府 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 山 口 高 校 宇 部 工 業 高 校 下 関 工 業 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 有 富 美 子 和 田 美 道 明 花 村 慈 照 伊 藤 藤 由 紀 子 (休 部) 平 休 田 博 英 古 屋 元 子 大 濱 進 治 安 藤 公 隆 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ ントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 光 丘 高 校 宇 部 女 子 高 校 防 府 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 山 口 高 校 宇 部 工 業 高 校 下 関 工 業 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
監 事 " "	林 佳 二 野 村 稔		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 計 務 会 庶 務	角 中 悦 太 郎 柴 崎 正 比 古 豊 川 眞 利 子 大 黒 昌 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向 川 栄 美 作詞

乗 松 美 紀 作曲



1. てをのばせば ほら きっとだれかがささえてくれる
2. よびかければ ほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせ ー ば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



ほくらのぶんか を つく る た め ー に
ほくらのぶんか を き ず く た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間はいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟
「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	有 富 美子	(県 立 萩 高 等 学 校)
マーチングバンド バトントワリング	花 村 慈 照	(宇 部 女 子 高 等 学 校)
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄	(県 立 下 関 南 高 等 学 校)
吹 奏 楽	和 田 道 明	(県 立 華 陵 高 等 学 校)
演 劇	三 藤 真 人	(県 立 厚 狭 高 等 学 校)
日 本 音 楽	伊 藤 由 紀 子	(県 立 防 府 高 等 学 校)
美 術 ・ 工 芸	平 田 博 英	(県 立 岩 国 高 等 学 校)
書 道	古 屋 元 子	(県 立 山 口 高 等 学 校)
写 真	大 濱 進 治	(県 立 宇 部 工 業 高 等 学 校)
囲 碁	安 藤 公 隆	(県 立 下 関 工 業 高 等 学 校)
将 棋	弘 中 敏 之	(県 立 防 府 商 業 高 等 学 校)
放 送	青 木 幸 子	(県 立 山 口 農 業 高 等 学 校)

(事 務 局)

事 務 局 長	中 邑 立 夫	(県 立 山 口 中 央 高 等 学 校)
総 務	角 中 悦 太 郎	(")
庶 務 会 計	大 黒 昌 子	(")
"	豊 川 眞 利 子	(")

平成11年度
山口県高等学校文化連盟集録
「 高 文 連 」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話・FAX 083-932-0818

